

(2) 言語社会専攻

【アジア I 講座】

〔中国語〕

古川 裕 (FURUKAWA Yutaka) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 広域言語実践論 I AB、広域対照言語論特別研究 AB。

〈共通教育担当科目〉 中国語 (中級)

〈学部教育担当科目〉 中国語 1・2、中国語 XI、中国語学特別演習、中国語学講義、教科教育法 (中国語)。

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 現代中国語の認知言語学的研究、日本語話者に対する中国語教育に関する研究。

〈所属学会〉 世界漢語教学学会、日本中国語学会、中国語教育学会、国際中国語学学会、亜太地区国際漢語教学学会。

〔研究業績〕

〔論文〕

- ・ 语素因素对日语母语者汉语词汇习得影响研究, (李冰、古川裕), 《汉语学习》2020 年第二期, pp.84-92。

〔翻訳・翻訳書〕

- ・ 古川裕・林初梅監訳『日本語と華語の対訳で読む台湾原住民の神話と伝説』(上下巻)、三元社、2019 年 12 月。

〔口頭発表・講演・学会報告〕

- ・ 从省略和羡余角度看汉日两语的动名组合, “省略”与“羡余”语言现象国际学术研讨会, 江西師範大学外国語学院 (中国南昌), 2019 年 4 月 26-27 日。
- ・ 日本“中国語”教育的過去、現状和未来, Confucius Institute of Wien University(Austria), 2019 年 5 月 31 日。
- ・ 从构式角度看汉语的对举形式, 2019 中日語言学論壇, 中国社会科学院語言研究所 (中国北京), 2019 年 6 月 27 日。
- ・ 日本高考試題的分析研究, 第五届国際漢語教学研討会, 香港教育大学 (中国香港), 2019 年 7 月 26 日。
- ・ 日本網絡化社会概況, 網絡文化比較研究国際學術研討会, 長春大学 (中国長春), 2019 年 9 月 4 日。
- ・ 汉语的表述特色及其教学对策, 吉林大学文学院 (中国長春), 2019 年 9 月 6 日。
- ・ 从本体理论语法到教学应用语法的意识转变, 汉语语法研究和教学新进展国际研讨会, 大阪産業大学, 2019 年 9 月 29 日。
- ・ “他那么胖是吃肉吃的”构式的句法语义特点, The 5th International forum on Linguistics and Chinese Education, Columbia University (New York, USA), 10 月 5 日。
- ・ “是 VO+V 的”构式的句法一语义特点, 第 10 届现代汉语语法国际研讨会, 関西外国語大学, 2019 年 10 月 26 日。
- ・ 「ユーザー中心の中国語教育文法設計に向けて」, 日本中国語学会第 69 回全国大会ワークショップ, お茶の水

女子大学, 2019年11月2日。

- ・「日本語及び中国語の教学に漢字がもたらすマイナス作用」, 日本語文化国際研究会, 中国日語教学研究会江蘇分会2019年会, 江南大学(中国蘇州), 2019年11月9日。
- ・从汉日对比的角度看“再P也Q”句式, 第五届副词研究学术研讨会大会报告, 上海外国语大学(中国上海), 2019年11月17日。
- ・国际中文教育的多边合作, 国际中文教育大会, 长沙, 2019年12月8日。
- ・关于〈流动〉事件的汉日两语表述方式对比研究, 日中对照研究会2019年大会, 大阪産業大学, 2019年12月22日。
- ・中国文化的审美观和汉语的表述特点, 同济大学国际文化学院高端外国专家讲座(中国上海), 2019年12月27日。
- ・从补语特点看汉语教学语法, 同济大学国际文化学院高端外国专家讲座(中国上海), 2019年12月28日。
- ・汉语的国际化和在日汉语教学, 汉语国际教育学科建设高端会议大会报告, 同济大学(中国上海), 2019年12月29日。

〈研究助成〉

- ・外国人特別研究員奨励費

[その他の活動]

〈管理運営〉グローバルイニシアティブ・センター海外拠点部門地域連絡会(東アジア拠点)

〈学会活動〉世界漢語教学学会副会長、亜太地区国際漢語教学学会理事、中国語教育学会代表理事、桜美林大学孔子学院理事、上海華文教育研究中心專家、大連理工大学海天学者、北京語言大学对外漢語研究中心客座教授。

〈社会貢献活動〉同济大学(中国上海)・上海外国語大学(中国上海)・大連理工大学(中国大連)・国立高雄科技大学(台湾高雄)との学術交流コンタクトパーソン、映画字幕翻訳講座コーディネイター、大阪アジア映画祭実行委員、関西地区中国留学経験者同窓会会長、全日本中国留学経験者同窓会副会長。

深尾 葉子 (FUKAO Yoko) 教授

<https://www.fukaoyoko.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語社会動態論 II

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習

〈学部教育担当科目〉中国語 IXa b、中国社会演習 a b、中国文化演習 I a b、中国語 1 1 (A)、中国語 1 1 (B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉

黄砂発生の社会経済的アプローチ

中国黄土高原農村社会のコミュニケーションダイナミクス

海外中国人ネットワークの動態分析

〈所属学会〉

歴史文化工学会

[研究業績]

〈研究助成〉

- ・大阪大学 Innovation Bridge グラント大型産学共創コンソーシアム組成支援プログラム
「健康長寿を実現する北摂市民による住民参加型プロジェクト」(2018年9月～継続中)
- 科学研究費基盤研究 B 黄砂発生地域における表層土壌回復のための社会経済的アプローチ 代表者(2014年～継続中)

[その他の活動]

- 〈管理運営〉一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト助成事業審査委員
- 〈学会活動〉歴史文化工学会副代表

今泉 秀人 (IMAZUMI Hideto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉中国語中級

〈学部教育担当科目〉中国語3、中国語14、中国語Ⅷ、中国文学研究、中国文学特別演習Ⅱ、中国文学講義Ⅰ、中国研究概論

[研究活動]

- 〈研究テーマ〉中国現代文学、中国語圏文学
- 〈所属学会〉日本中国学会、日本現代中国学会、中国文芸研究会、日本比較文学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「鍾理和の“亡命”について」日本比較文学会関西支部2019年4月例会(大阪市立大学)2019年4月27日
- ・「中国語が若かった頃 沈從文と鍾理和」日本比較文学会第81回全国大会(北海道大学)2019年6月15日
- ・「郷下人と原郷人 沈從文・鍾理和比較研究序説」青島・重慶文芸研究会(近畿大学)2019年6月29日

〈研究助成〉

- ・科研費基盤研究(C)「近代中国の知識人群像——日中15年戦争期の民国教科書編纂事業と三人の作家について」(2017-2020)

[その他の活動]

- 〈管理運営〉講座代表者会議委員

林 初梅 (LIN Chumei) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉言語社会研究入門

〈学部教育担当科目〉中国文化演習Ⅱ、中国語講義Ⅳ、中国語講義ⅩⅡ、中国語17、中国語5B

[研究活動]

〈研究テーマ〉台湾における日本時代の集会的記憶、台湾の新南向政策

〈所属学会〉日本台湾学会、東アジア近代史学会、多言語社会研究会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈翻訳書〉

- ・林初梅編／林初梅・古川裕監訳『日本語と華語の対訳で読む台湾原住民の神話と伝説』2019年、三元社

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・講演「家族史の書籍化と映像化に注目して一戦後世代の台湾人による日本時代の記憶の構築」2019年6月18日於台湾政治大学

〈研究助成〉

- ・科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 「文化的装置としての〈日本〉一戦後台湾における集会的記憶の社会的構成に関する研究」2018年4月～2022年3月(研究課題番号:18H03445) 研究代表者
- ・科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽) (研究代表者:志賀幹郎)「「未来をつくる研究」としての外国人生徒児童教育研究—台湾の新南向政策の分析」2017年4月～2020年3月(研究課題番号:17K18616) 研究分担者
- ・「台湾研究及び台湾言語文化課程プロジェクト」(台湾研究講座)台湾教育部研究助成寄付金、研究期間2019年4月～2022年3月、研究代表者
- ・「歴史記憶としての「日本」一植民地時代を描く台湾の歴史小説のドラマ化ブームに関する社会学的研究」鹿島学術振興財団研究者海外派遣プログラム、派遣期間2019年4月～2019年9月

〈調査活動〉

- ・戦後初期台湾人の進学体験についての聴き取り調査、植民地時代を描く台湾の歴史小説に関する研究調査、台湾の新住民子女言語教育の現地調査

[その他の活動]

〈学会活動〉

- ・日本台湾学会理事

鈴木 慎吾 (SUZUKI Shingo) 講師

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/suzukish/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 IA・B、アジア・アフリカ言語構造論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉広東語

〈学部教育担当科目〉中国語 16 (広東語初級)、中国語 19 (広東語初級)、中国語 Va・b (広東語中級)、中国語演習 IIIa・b、中国語学特別演習 IIIa・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語学 (音韻・方言)

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国学会、漢字文献情報処理研究会、中国語教育学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・鈴木慎吾、中国の韻書、第64回国際東方学会議、2019年5月18日、日本教育会館（東京都千代田区）、招待講演、国際学会。

〈研究助成〉

- ・『切韻』系韻書総合データベースの構築（科学研究費補助金基盤研究（C）平成28-31年度；研究代表者）
- ・平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立（科学研究費補助金基盤研究（B）平成28-31年度；研究分担者）
- ・古典漢文形態素コーパスにもとづく動詞の作用域の自動抽出（科学研究費補助金基盤研究（B）平成29-31年度；研究分担者）

[その他の活動]

〈管理運営〉言語社会専攻コンテンツ管理委員（2012年4月～）、同委員長（2019年4月～）、ネットワーク管理委員（2012年4月～）

〈学会活動〉日本中国語学会ウェブリソース委員長（2012年4月～）、評議員（2016年4月～）；中国語教育学会理事（2018年4月～）

中田 聡美（NAKATA Satomi）講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域対照言語論 IA, IB、アジア・アフリカ言語社会研究序説（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉中国語中級選択

〈学部教育担当科目〉中国語1(B), 2(B)、東アジア言語文化概論、中国語XIIIa, XIIIb、中国語学講義 Ia、中国語学特別演習 IIa, IIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語学（主に現代中国語のモダリティに関する研究）

〈所属学会〉日本中国語学会、中国語教育学会、国際中国語学学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・关于“V了+有+数量结构”的认知考察—从与“V了+数量结构”的比较谈起，『现代中国語研究』（中国版），第5期，59-69頁，2019年9月。

〈翻訳・翻訳書〉

- ・『日本語と華語の対訳で読む台湾原住民の神話と伝説』上巻・下巻，編者/監訳：林初梅，監訳：古川裕，訳：中田聡美、興水凜，三元社，2019年11月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・“不帶VP的”句式的情态义及其产生机制，The 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics(IACL-27)，神戸市外国語大学，2019年5月。
- ・从大学院汉语专业课程设置谈日本大学汉语师资队伍建设面临的问题，第十五届国际汉语教学学术研讨会，中国・北京師範大学，2019年6月。
- ・再论话语标记“怎么”的用法—兼论与“什么”的异同，第十届现代汉语语法国际研讨会，関西外国語大学，2019

年10月。

〈研究助成〉

- ・ユーザー視点による中国語教育文法設計の方法論構築—項目の分散化と説明の平易化— (科学研究費助成事業 基盤研究 (C) , 2019年4月-2022年3月, 研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 紀要編集委員会委員、国際交流委員会委員、研究・広報・社会貢献委員会委員、協定校コンタクトパーソン

〈学会活動〉 中国語教育学会デジタルリソース委員会委員、中国語教育学会第17回全国大会準備委員会委員、大阪大学言語社会学会理事

劉 文兵 (LIU Wenbing) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉 アジアの社会と文化を知る

〈学部教育担当科目〉 中国語3、中国語15、中国語VIIa, b 中国語Xb、中国文学講義Ia、中国文学特別演習I

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国映画史、日中映画交流史、欧米映画に描かれたアジア人の表象

〈所属学会〉 日本現代中国学会、表象文化論学会、日本映像学会

[研究業績]

〈著書 (共著) 〉 土屋昌明、鈴木一誌編『ドキュメンタリー作家 王兵 現代中国の叛史』、ポット出版プラス、2020年3月 (劉文兵: 論文「ワン・ビン作品における視線のポリティクス—見る／見られるの非対称性を巡って」)

〈著書 (共著) 〉 樋口尚文編『大林宣彦』、宮帯出版社、2019年7月 (劉文兵: 論文「利害を超えた自然な異文化コミュニケーションの表象」)

〈論文〉

劉文兵「佐藤忠男とアジア、そして中国映画」、『専修大学社会科学研究所月報 No. 678』、2019年12月

〈書評〉

劉文兵「満州体験軸に監督作論じる 四方田犬彦著『無明 内田吐夢』」、2019年7月20日付『日本経済新聞』朝刊

劉文兵「李香蘭イメージと実像検証 川崎賢子著『もう一人の彼女』」、2019年6月8日付『日本経済新聞』朝刊

張 恒悦 (ZHANG Hengyue) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 広域言語実践論 AB

〈学部教育担当科目〉 中国語5(A)、中国語Ia(A)、中国語18、中国語12(AB)、中国語Ib(A) 中国語IIab(B)。

[研究活動]

〈研究テーマ〉誤用分析に基づく中国語教育文法の研究及び教育方法への提言

〈所属学会〉日本中国語学会、中国語教育学会、日中対照言語学会

[その他の活動]

〈学会活動〉『中国語教育』編集委員

郭 修靜 (KUO Hsiuchin) 特任講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉中国語特別演習 AB

〈学部教育担当科目〉中国語 4(AB)、中国語 18、中国語 13(AB)、中国語 I a(A) 中国語 IIab(A)。

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語教育、教材分析、ICT を活用した中国語教育

〈所属学会〉日本中国語学会、中国語教育学会

[朝鮮語]

岸田 文隆 (KISHIDA Fumitaka) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉「アジア・アフリカ言語構造論特別研究 II」、「アジア言語構造論 II」、「アジア言語文化表象論 III」

〈共通教育担当科目〉「朝鮮語中級」(1セメスターのみ)

〈学部教育担当科目〉「朝鮮語2」、「朝鮮語13」、「朝鮮語IV」、「朝鮮語学講義」、「朝鮮語学演習II」、「教科教育法(朝鮮語)」

[研究活動]

〈研究テーマ〉江戸・明治期の日本の朝鮮語学書についての研究

〈所属学会〉朝鮮学会、満族史研究会、朝鮮語研究会、韓国国語史学会、国際訳学書学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・岸田文隆 (2019) 「富山市立図書館山田文庫所蔵「朝鮮口聞書」解題ならびに翻刻『ユーラシア諸言語の動態 III 一言語の多様性と類型と混成言語一』CSEL21号 (Kobe City College of Nursing)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・岸田文隆 (2019) 「対馬の朝鮮語学」国際訳学書学会第11回国際学術会議「東アジアの訳学政策」(龍谷大学 大阪梅田キャンパス)

〈研究助成〉

- ・平成31年度科学研究費補助金基盤研究(C)、課題番号:17K02725、研究課題名:江戸・明治期日朝往復ハンゲル書簡類データベースの構築

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語学部副学部長、FD 研修委員会委員、留学生支援ネットワーク担当責任者
〈学会活動〉 朝鮮学会幹事、満族史研究会幹事、朝鮮語研究会幹事、韓国国語史学会編集委員、国際訳学書学会
会長
〈社会貢献活動〉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研修専門委員会委員

小西 敏夫 (KONISHI Toshio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ言語構造論、アジア・アフリカ言語社会研究序説、アジア・アフリカ言語
構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習(朝鮮語)

〈学部教育担当科目〉 朝鮮語、朝鮮語学演習、朝鮮文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 『釈譜詳節』『月印千江之曲』『月印釈譜』とその原典における言語表現の違いについて

〈所属学会〉 朝鮮学会、日本言語学会、西日本言語学会

酒井 裕美 (SAKAI Hiromi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論 I、アジア・アフリカ言語社会論特別研究

〈共通教育担当科目〉

〈学部教育担当科目〉 朝鮮文化演習 I、朝鮮文化演習 II、朝鮮文化演習 IV、朝鮮語 1 2、朝鮮文化講義、朝鮮社
会文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 朝鮮近代外交史

〈所属学会〉 朝鮮史研究会、朝鮮学会、東アジア近代史学会

〔モンゴル語〕

塩谷 茂樹 (SHIOTANI Shigeki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 モンゴル語

〈共通教育担当科目〉 ユーラシアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 モンゴル語、アルタイ諸語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 モンゴル言語学（形態論、語彙論）、モンゴル口承文芸（ことわざ、民話、慣用句）

〈所属学会〉 日本モンゴル学会、国際モンゴル学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「民和土族語の通時的母音変化について」『言語文学研究』Vol.12(44), 98-106, 2019年11月

〈書評〉

- ・書評：ボルジギン・フスレ編著『改訂版 ユーラシア草原を生きるモンゴル英雄叙事詩』三元社 2019年9月刊, 『図書新聞』3426号6頁, 2019年12月7日

〈口頭発表〉

- ・「民和土族語における主観・客観形式について」モンゴル諸語における言語変容—外的要因と内的要因—, 2019年度第2回研究会, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2020年2月1日

〈講演〉

- ・「ことわざより見られるモンゴルの文化」阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン, 2019年11月21日

今岡良子 (IMAOKA Ryoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語社会構造論 I A/B

〈共通教育担当科目〉現代社会を読み解く、平和の探求、特別外国語演習 (モンゴル語) II

〈学部教育担当科目〉モンゴル語2、モンゴル語15、モンゴル社会文化概論、モンゴル社会講義 a/b、モンゴル社会演習 IIa/b、モンゴルフィールドワーク演習 a/b

[研究活動]

〈研究テーマ〉遊牧と生物多様性

〈所属学会〉畜産システム研究会、日本環境学会、国際モンゴル学会、モンゴル研究会

中嶋 善輝 (NAKASHIMA Yoshiteru) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 V A, B

〈共通教育担当科目〉モンゴル語初級 I

〈学部教育担当科目〉モンゴル語3, モンゴル語学演習 I, II a, b, モンゴル語13, カザフ語 a, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉モンゴル語とチュルク語の言語接触, アルタイ言語学

〈所属学会〉日本モンゴル学会, 大阪大学言語社会学会, 国際モンゴル学会

[研究業績]

〈単著〉

- ・『簡明ウズベク語辞典』 [オンデマンド版] (2019), 大阪大学出版会, ISBN 978-4-87259-696-0 C3587.

[その他の活動]

〈学会活動〉日本モンゴル学会理事, 国際モンゴル学会書記局メンバー

Magsarjav Bayarsaikhan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> mongolian

<Foreign language classes> mongolian

[Academic activities]

<Research Fields and interests> linguistics

<Academic society memberships> International Association for Mongol Studies,

Japan Association for Mongolian Studies

[Research achievements]

<Books>

- ・ Манж, хятад, монгол, тод үсэг хавсарсан толь бичиг, Судалгааны баг: М.Баярсайхан, Б.Агнеш, Д.Заяабаатар, Ш.Эгшиг, Т.Отгонтуул, Р.Аттила, Э.Жаргалмаа, Удиргалыг М.Баярсайхан, Улаанбаатар, 2020, ISBN 978-9919-504-13-7 (Tetraglot Thematical Dictionary in Manchu, Chinese, Mongolian and Clear Scripts, research team: M.Bayarsaikhan, B.Agnesh, D.Zayabaatar, Sh.Egshig, T.Otgontuul, R.Atila, E.Jargalmaa, Introduction by M.Bayarsaikhan, Ulaanbaatar, 2020, ISBN 978-9919-504-13-7)

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- ・ “Монгол бичгийн хэлний найруулга дахь манж хэлний нөлөө” (「モンゴル語の文体にみられるマンジュ語の影響」) 日本モンゴル学会, 2019 年度春季大会, 2019 年 5 月 18 日

【アジア II 講座】

【インドネシア語】

菅原 由美 (SUGAHARA Yumi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論、アジア地域社会論

〈共通教育担当科目〉 学問への扉、歴史学方法論講義：歴史学のフロンティア

〈学部教育担当科目〉 インドネシア語、インドネシア文化概論、インドネシア文化講義 I、インドネシア文化演習 II、東南アジア社会文化演習 II (K)、言語文化比較交流論 (H-I)、東南アジア地域研究概論

その他 海外研修 (インドネシア)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 インドネシア史、東南アジア・イスラーム史

〈所属学会〉 東南アジア学会、史学会、日本インドネシア学会、日本イスラム協会、インドネシア研究懇話会、Masyarakat Pernaskahan Nusantara/Manassa (インドネシア写本学会、インドネシア)、Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde (王立言語地理文化研究所、オランダ)

[研究業績]

〈共著〉

- ・菅原由美. 2019. 「ジャウィ文字」 信田敏宏ほか編『東南アジア文化事典』丸善出版、208-209.
- 〈翻訳書〉 ヤン・デ・ホント、メンノ・フィツキ. 2020. 『一本の細い橋 A Narrow Bridge: Japan and the Netherlands from 1600』大阪大学適塾記念センター（松野明久・菅原由美）訳. 大阪大学出版会.
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ Yumi SUGAHARA, “Sunan Bonang’s teaching: Theology and Sufism in 16th century Java” International Conference “Java in Jerusalem: New Directions in the Study of Javanese Literature and Culture” 17-19 June 2019, The Israel Institute for Advanced Studies, Jerusalem, Israel.
- ・ Yumi SUGAHARA, Convened Panel “Rethinking the Process of Islamization: Transformation of Religion as Reflected in Javanese Texts” The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS11), 16-19 July 2019, Leiden, the Netherlands.
- ・菅原由美 「マレー語版 Daqa’iq al-Akhbar にみる天国と地獄」 科研「東南アジアのキターブ比較研究」研究会：「東南アジアのキターブ比較研究会：テキストと儀礼からみる東南アジア・ムスリムの来世観」、2019年10月16日、上智大学四谷キャンパス
- ・ Yumi SUGAHARA, “Balance between Islam and politics reflected in Babad Dipanegara” Farewell symposium for Willem van der Molen upon his retirement from KITLV, 12-13 December 2019, Leiden, the Netherlands.
- ・ Yumi SUGAHARA, “Paradise and hell: Daqa’iq al-Akhbar translated for the Malay world.” Workshop on Comparative Study of Southeast Asian Kitabs: Concepts of the Hereafter, 11 January 2020, Sophia University, Tokyo.
- ・菅原由美 「ババッド・タナ・ジャウィとワリ・ソング」 アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究 課題「ジャワ語及び東南アジア諸語テキストにみる宗教変容ーイスラーム化過程における戦略と役割」2019年度第3回研究会、2020年2月23日、東京外国語大学AA研
- 〈研究助成〉
- ・ 科研基盤研究 (B) 海外学術調査「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」(平成28~31年度) 研究代表者
- ・ 科研基盤研究 (C) キターブの地域間比較と時代的変容からみる東南アジア・ムスリムの思想・社会の動態」研究代表 川島緑(平成29-31年度) 研究分担者
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究「ジャワ語テキストにみるジャワの宗教変容(2) ジャワのイスラーム化再考」(2016-2018年度) 研究代表
- ・ 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究 (IPCR) 「イスラーム受容体としての東南アジア：上座部仏教社会におけるムスリム共生の歴史学的・人類学的研究」研究代表 池田一人(2019-2020年度) 研究分担者
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉
- ・ 外国語学部教務委員
- ・ 設備・施設マネジメント委員会委員
- ・ ネットワーク運用管理委員
- ・ 適塾記念センター・オランダ学研究部門兼任教員
- 〈学会活動〉

- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所出版 Javanese Studies Series 編集委員
- ・Javanese documents online (JVDO) URL: <https://jvdo.aa-ken.jp/>
- ・インドネシア写本学会誌 *Manuskripta: Jurnal Manassa* 編集顧問
- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用共同研究「東南アジアのイスラームと文化多様性に関する学際的研究（第二期）」（2014年度～2016年度）共同研究員
- ・上智大学アジア文化研究所共同研究員
- ・天理大学南方文化研究会『南方文化』編集委員
- ・日本東南アジア学会会計理事 (2019.1～)
- ・インドネシア研究懇話会(KAPAL)総務 (2019.1～)
- ・箕面アジア勉強会/ 大阪大学地域研究フォーラム (OUFAS) 世話人
(社会貢献活動)
- ・国際交流基金アジアセンター日本語パートナーズ派遣研修用出張講義、①2019年8月7日国際交流基金関西国際センター、②2020年2月19日立命館アジア太平洋大学 (APU)
- ・「イスラム教と QOL」第94回 QOL 研究会、2019年4月27日、大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

原 真由子 (HARA Mayuko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 IX、アジア・アフリカ言語文化研究序説（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉特別外国語（インドネシア語初級）

〈学部教育担当科目〉インドネシア語4、インドネシア語13、インドネシア語 III、インドネシア語学講義 I、インドネシア語学演習 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学（インドネシア・バリ）、言語学、インドネシア語教育

〈所属学会〉日本言語学会、社会言語科学会、日本音声学会、日本インドネシア学会、外国語教育学会、Masyarakat Linguistik Indonesia

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・原真由子(2019)「インドネシア語のとりたて表現」野田尚史編『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版、pp.145-162

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・森山幹弘、降幡正志、原真由子「インドネシア語応用教材に関する共同研究からの報告」第50回日本インドネシア学会研究大会（大阪大学豊中キャンパス、2019年11月9日）
- ・原真由子「インドネシア語の『今でしょ!』：sekarang saja と sekarang juga」第2回 OSIP フォーラム（OBP アカデミア、2020年2月22日）

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 (C) 「バリ語山地方言の会話コーパスと語彙データベースの構築」 研究代表者
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 (C) 「日本におけるインドネシア語応用教材の研究と開発及び教材バンクの拡張」 (研究代表者: 森山幹弘) 研究分担者
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究(B) 「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」 (研究代表者: 小森淳子) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 インドネシア語学科目代表、研究・広報・社会貢献委員会委員、大学院入試委員会委員、大学間学術交流協定コンタクトパーソン (インドネシア大学)、部局間学術交流協定コンタクトパーソン (ウダヤナ大学)

〈学会活動〉 日本インドネシア学会事務局

松村智雄 (MATSUMURA Toshio) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論 VIII A、アジア言語社会動態論 VIII B

〈共通教育担当科目〉 アジアの文化と社会を知る F

〈学部教育担当科目〉 東南アジア社会文化演習 IIa(G)、(地域系科目) 東南アジア社会文化演習 IIa(G)、東南アジア社会文化演習 IIb(G)、(地域系科目) 東南アジア社会文化演習 IIb(G)、インドネシア文化演習 Ia、インドネシア文化演習 Ib、インドネシア語 1、インドネシア語 14、インドネシア文化講義 IIa、インドネシア文化講義 IIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉 インドネシア地域研究、華人研究

〈所属学会〉 アジア政経学会、東南アジア学会、日本華僑華人学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 分担執筆「解題 2. 復刻版『ボルネオ新聞』1942～45年」早瀬晋三『南方軍政関係史料 48 復刻版『ボルネオ新聞』(1942～45年) 解題・総目録・索引(人名・地名・事項)』龍溪書舎、2019年12月、pp.35-71。

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 書評「山下清海著 世界のチャイナタウンの形成と変容：フィールドワークから華人社会を探究する」『華僑華人研究』16号、2019年10月、pp.73-77。

〈研究助成〉

- ・ 「新資料による1950年代インドネシアの華人をめぐる政治状況分析」科研費「若手研究 (B)」(2017～2020年度)

〈調査活動〉

- ・ インドネシア、ジャカルタおよびリアウ州における華人社会の変容に関する調査 (2019年8月20日～9月12日)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本華僑華人学会学会誌『華僑華人研究』16号編集委員

Dwi Puspitorini, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Foreign language classes> Indonesian 2, Indonesian 3, Indonesian 11, Indonesian 12, Indonesian Ia, Indonesian Ib, Indonesian Iia, Indonesia Iib, Lecture on Indonesian Linguistics Iia, Lecture on Indonesian Linguistics Iib, Lecture on Indonesian Cultures IVa, Lecture on Indonesian Cultures IVb

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Linguistics

<Academic society memberships> HPISJ, MLI

[Research achievements]

<Papers>

- Understanding Javanese Hybridity: A Study on Sanskrit and Arabic Influence in the Javanese Language (co-author, <https://eudl.eu/proceedings/Wol2SED/2018?q=Javanese>).
- Javanese-Language Advertisements in 1935-1953: The Construction of National Ideas (co-author, <https://eudl.eu/doi/10.4108/eai.21-12-2018.2282678>).
- Tingkat Tutur dalam Film Kartini
(co-author, <http://journal.univetbantara.ac.id/index.php/kawruh/article/view/406>).
- “Matur nuwun”: The Value of Javanese Politeness in Corpus Web Application (co-author, <https://eudl.eu/doi/10.4108/eai.27-4-2019.2286836>).
- Nyuwun Pangapunten: Local Genius of Javanese Society in Speaking on Web Application of Javanese Corpus (co-author, <http://dx.doi.org/10.4108/eai.29-8-2019.2289119>).
- Personal Pronouns as the Constructor of Speaker Identity: Analysis in Javanese Text (co-author, <https://eudl.eu/doi/10.4108/eai.27-4-2019.2286935>).
- “Building Corpora for Under-Resourced Languages in Indonesia” (poster with Totok Suhardijanto, International Conference for Language Technologies for All: Enabling Linguistic Diversity and Multilingualism Worldwide, Paris.).
- Menyoal Kembali Partikel ta dalam Bahasa Jawa Kuno (International Seminar on Nusantara Manuscript (Javanese Language and Literature), Malang, 16-17 November 2019).

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- 50th Symposium on Indonesian Research Associations throughout Japan (HPISJ), Osaka University 9-10 November 2019.
- International Seminar on Nusantara Manuscript (Javanese Language and Literature), Malang, 16-17 November 2019.

<Research aids (Competitive Research Funds)> Research Funds from Ministry of Research and Technology of the Republic of Indonesia, 2019.

[Other activities] National Mini Symposium at Universitas Indonesia, 28-29 July 2019 (participant), Workshop on Research Method Universitas Indonesia, 6th March 2020 (participant)

〔フィリピン語〕

宮脇 聡史 (MIYAWAKI Satoshi) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ言語社会論特別研究、アジア言語社会構造論、言語文化比較交流論

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 フィリピン語 (1年、2年、3・4年の各科目)、東南アジア社会文化演習、フィリピン社会演習、東南アジア地域研究概論

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 フィリピンのキリスト教のグローバルな社会変容の中での動向と言説分析、教会と性的少数者、教会組織と日常の宗教実践の交渉

〈所属学会〉 東南アジア学会、アジア政経学会、「宗教と社会」学会、日本比較政治学会

〔研究業績〕

〈単著・編著書・共著〉

- ・『フィリピン・カトリック教会の政治関与』

〈口頭発表・講演・学会報告〉

第24回フィリピン研究会全国フォーラム (6月22日、23日 (名古屋大学)) における二つのパネルの組織と発表: パネル「Language, Literature, Education」 (個人発表は Emergence of Bible Translation into Heterogeneous Language – New Testament Pinoy Version and the Development of Tagalog/Filipino/Taglish Bible Translations) ; パネル「医療・性・生殖」 (個人発表は「性と生殖をめぐるフィリピン・カトリック教会の言説と政治」)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 講座代表者 (アジアII講座)、総務委員 (副委員長)、なんでも相談室員

〈社会貢献活動〉 認定NPO 法人アイキャン理事

矢元 貴美 (YAMOTO Kimi) 助教

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 XI、アジア・アフリカ言語社会研究序説 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉 アジアの文化と社会を知る E (フィリピンの文化と社会を知る)

〈学部教育担当科目〉 フィリピン語 I、フィリピン語 5、フィリピン語 11、フィリピン語 I、フィリピン言語演習、フィリピン言語特別演習 I・II、教科教育法 (フィリピン語)

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 外国にルーツを持つ子どもたちの教育支援、母語・継承語教育、第二外国語教育

〈所属学会〉 大阪大学言語社会学会、母語・継承語・バイリンガル教育学会、日本社会学会、多文化関係学会、移民政策学会、異文化間教育学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・矢元貴美 (2019) 「フィリピン語を学ぶ高校生と大学生との交流会 (教育実践報告)」 『外国語教育のフロン

ティア』3: 121-132。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Kimi YAMOTO “Error Analysis among Beginner Filipino Major Learners in Japan: Focus on Errors before Introducing Verbs in Filipino Language” The 24th Young Scholars’ Conference on Philippine Studies at Nagoya University on June 22nd, 2019.
- ・ 矢元貴美「徳之島に暮らすフィリピン人女性の子もたちの進路とフィリピン文化の継承」第24回フィリピン研究会全国フォーラム、於 名古屋大学、2019年6月23日
- ・ Kimi YAMOTO “Current Situation of Mother Tongue and Heritage Language Education for Children with Filipino Roots in Japan” The Center for Philippine Studies Conference 2019 “Emerging Voices in Filipino and Philippine Studies” at University of Hawaii at Manoa on November 6th, 2019.

[その他の活動]

〈学会活動〉 異文化間教育学会紀要編集委員会常任委員、多文化関係学会学会誌編集委員

Edgar Calabia Samar, Specially Appointed Associate Professor

<http://www.edgarsamar.com>

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Asian Languages and Cultural Representations VIIIA, Asian Languages and Cultural Representations VIIIN, Special Seminar in Filipino A, Special Seminar in Filipino B

<Foreign language classes> Filipino 2, Filipino 3, Filipino 14, Filipino 15, Lecture on Filipino Language IIIa, Lecture on Filipino Language IIIb, Lecture on Filipino Literature

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Philippine Literature, Language, and Culture

<Academic society memberships> Linangan sa Imahen, Retorika, at Anyo; Filipinas Institute of Translation

[Research achievements]

<Books>

- ・ Samantalang Sakop at Iniibig (Ateneo de Naga University Press, 2018); Si Janus Silang at ang Hiwagang May Dalawang Mukha (Adarna House, 2019); Mga Nilalang na Kagila-gilalas (Adarna House, 2019)

[Other activities]

<Academic society activities> LIRA Lecture, MIBF Book Launch, Barlaya Lecture

〔タイ語〕

宮本 マラシー (MIYAMOTO Marasri) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A, B、アジア言語文化表象論 IV A, B

〈共通教育担当科目〉

〈学部教育担当科目〉 タイ語5、タイ語13、タイ語IVa,b、タイ語学演習 a,b、東南アジア言語講義 a,b、タイ語教育法 I、II

[研究活動]

〈研究テーマ〉 タイ語における反復表現、タイ語教材研究

〈所属学会〉 日本言語学会、社会言語科学会、日本認知言語学会、大阪外国語大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「タイ語における動詞の反復」、『外国語教育フロンティア』第3号、大阪大学大学院言語文化研究科、pp.11-29、2020年3月。

〈調査活動〉

- ・ 2019年8月27日～9月6日、タイ語の反復語表現の資料収集及びタイ語教材作成の共同研究

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉 朝日カルチャーセンターの「タイ語会話」講師、広島平和記念資料館のタイ語音声ガイドの監修。

村上 忠良 (MURAKAMI Tadayoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会構造論、アジア地域社会論

〈学部教育担当科目〉 タイ語Ⅰ、タイ語Ⅱ、タイ語Ⅲ、東南アジア社会文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 声の実践によるテキスト共同体—東南アジア大陸部の仏教写本をめぐる宗教実践

〈所属学会〉 日本文化人類学会、日本タイ学会、東南アジア学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 『東南アジア文化事典』、丸善出版、信田敏宏ほか（編）、担当「タイ語」（pp.176-317）「声の文化と宗教」（pp.244-245）「通過儀礼」（pp.340-341）、2019年11月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 「仏教交流の実相への視座—タイと日本の関係より—」、龍谷大学世界仏教文化研究センター研究セミナー、2019年10月11日、龍谷大学大宮キャンパス
- ・ “The Change in Pashtun Identity: Ethnicity and the Religion of the Pashtuns in Northern Thailand”, International Symposium “Muslim Minority in Southeast Asia”, November 1, 2019, Venue: Osaka University, Minoh campus, Organized by Kyoto University, CSEAS IPCR “Buddhists and Muslims in Theravada Societies in Mainland Southeast Asia: Historical and Anthropological Studies” and Osaka University, Graduate School of Languages and Culture Joint Research Project “Historical Studies on Spread and Acceptance of Islam through Interactions between South and Southeast Asia”, and Osaka Forum of Area Studies (OUFAS)

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金、基盤（A）、「東南アジア大陸部宗教研究の新パラダイムの構築」、研究分担者、研究代表者：片岡樹（京都大学）

- ・科学研究費補助金、基盤 (B)、「声の実践によるテキスト共同体—東南アジア大陸部の仏教写本をめぐる宗教実践」、研究代表者

〔調査活動〕

- ・2019年8月25日～9月1日、タイ仏教徒の写本朗誦についての調査 (タイ王国バンコク)、タイの華人系宗教実践についての調査 (タイ王国チャンタブリー)
- ・2020年2月14日～2月23日、タイ仏教徒の写本朗誦についての調査 (タイ王国メーホンソン)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 全学入試委員会委員、全学教育課程委員会委員、外国語学部副学部長

〈学会活動〉 日本タイ学会理事、大阪大学言語社会学会理事

〈社会貢献活動〉 大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会「咲耶会」幹事

日向 伸介 (HINATA Shinsuke) 講師

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論 VA

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (タイ語) I、タイ地域研究入門 (学問への扉 (マチカネゼミ))

〈学部教育担当科目〉 タイ社会演習、タイ社会講義、タイ語3、タイ語15、タイ語III、東南アジア地域研究概論

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 タイ近現代史、地域研究

〈所属学会〉 東南アジア学会、日本タイ学会、全日本博物館学会

〔研究業績〕

〈単著・編著書・共著〉

- ・日向伸介. 2019. 「ブレアヴィヒア寺院」 『東南アジア文化事典』 (信田敏宏ほか編) 丸善, 590-591.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・日向伸介. 「冷戦期タイの都市空間とセクシュアリティ: パッターヤーを事例として」 (東南アジア学会研究集会 (九州地区特別例会), 2019年7月21日, 立命館アジア太平洋大学)

〔研究助成〕

- ・2019年度文部科学省:科学研究費補助金 (若手研究) 「外交史料からみる近代タイの文化政策: 絶対王制期を中心として」 (代表者: 日向伸介) (新規)
- ・2019年度文部科学省:科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 「東南アジアの現代芸術におけるラーマーヤナの多元的意味に関する研究」 (代表者: 福岡まどか) (新規)

〔その他の活動〕

〈学会活動〉

- ・日本タイ学会理事 (2019～2020年度)

Buranapatana Maliwan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Thai Language and Culture, Short Stories and Thai Society, **Language Variations**, Language Change

<Foreign language classes> Thai Folktales, Thai Short Story: Interpretative Reading, Thai Ia Academic Speaking, Thai Ib Thai Speech, Thai 4 Listening I, Thai 14 Listening II, Thai 2 Conversation in Daily Life I, Thai 12 Conversation in Daily Life II

[Academic activities]

Training activities on Thai speech contest at Kanda University of International Studies, Tokyo

<Research Fields and interests> Teaching Thai as a foreign language, Classical Thai literature, Usage of Thai language

[Other activities]

<Academic society activities> Training activities for the students focus on learning Thai culture such as Songkran festival or Thai new year, Thai food and Thai dancing

〔ベトナム語〕

清水 政明 (SHIMIZU Masaaki) 教授

<http://hoithanglong.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論Ⅶ、アジア地域社会論 B、アジア・アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉アジア言語文化研究入門、情報社会基礎

〈学部教育担当科目〉ベトナム語 2、ベトナム語 13、ベトナム語 V、ベトナム言語演習、東南アジア社会文化演習 II(D)、言語文化比較交流論

[研究活動]

〈研究テーマ〉ベトナム語教育、ベトナム語音韻史、字喃研究

〈所属学会〉日本漢字学会、東南アジア学会、日本中国語学会、言語の類型的特徴をとらえる対照研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・清水政明 (盧佩芋訳)、「越南古文字中「喃」字解讀之過程」、『越南文化 從紅河到九龍江流域』、五南圖書出版股份有限公司、2019年、pp.255-271

〈論文〉

- ・ Shimizu Masaaki, On the Development of Tay Nom: from the Viewpoint of Viet-Tay Language Contact, *Journal of Viet Nam Hoc*, vol.1, 2020年, 38-58.

〈書評・論評・紹介〉

- ・清水政明、「ベトナム語」、「チュノム文字」、『東南アジア文化事典』、信田敏宏他編、丸善出版、2019年、pp. 164-7; 206-7.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・清水政明、「チュノムの造字法」、日本漢字学会第2回研究大会、東京大学、2019年12月1日
- ・ Shimizu Masaaki, Tan Liiong, Comparison of Some Food Names in Taiwanese and Southern Vietnamese, The 4th International Conference on Vietnamese and Taiwanese Studies, National Cheng Kung University, Nov 23, 2019.

- ・ Shimizu Masaaki, Tan Liiong, The Names of Foods Originating from Southern Min (閩南語) in the Southern Dialect of Vietnamese, 2019 International Conference on Chinese Food Culture, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies, Oct 14-17, 2019.
- ・ Shimizu Masaaki, Lịch sử giảng dạy và học tập tiếng Việt tại Nhật vào thế kỷ 18-20, The 4th International Conference of Vietnamese Studies, Vietnam National University-Hochiminh City, July 26-27, 2019
- ・ Shimizu Masaaki, Buddhist Scriptures Written in Chinese and Vietnamese Chu Nom Preserved at the Library of Kyoto University, Workshop on New Directions in Research on Sinoxenic Scripts and Manuscripts, the Centre for the Study of Manuscript Cultures, University of Hamburg, July 9-10, 2019.
- ・ 清水政明、「「変形漢字」とその周辺概念」、令和元年度第1回「アジア文字研究基盤の構築 1：文字学に関する用語・概念の研究」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2019年6月8日
- ・ Shimizu Masaaki, The Tonal System of Ancient Vietnamese Written in Chu Nom Documents, the 29th Meeting of the Southeast Asian Linguistics Society, KFC Hall and Rooms, Tokyo, May 27-29, 2019.

〈研究助成〉

- ・ 科研費基盤研究 B 「ベトナム東北部諸言語に見られる借用漢語音の研究」(研究課題番号：17H04522 代表者：東京大学 吉川雅之) 分担者
- ・ 科研費基盤研究 C 「ウェブを利用したベトナム語習得度試験システム開発のための基礎的研究」(研究課題番号：16K02961 代表者：大阪大学 清水政明) 代表者
- ・ 慶応義塾大学言語文化研究所共同研究「字喃(チュノム)資料研究会」兼任所員
- ・ 慶応義塾大学言語文化研究所共同研究「東南アジア諸言語研究会」兼任所員

〈調査活動〉

- ・ ベトナム社会主義共和国バクカン省バクカン市タイ語漢字音調査(2019年9月23日～26日)

[その他の活動]

〈学会活動〉

- ・ 東南アジア学会理事
- ・ 日本漢字学会理事
- ・ 言語の類型的特点をとらえる対照研究会理事

〈社会貢献活動〉

- ・ Journal of Viet Nam Hoc, Editor
- ・ Nom Preservation Foundation, Advisory Council

ファン・ティ・ミー・ロアン (Phan Thị Mỹ Loan) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 東南アジア言語講義a、b

〈共通教育担当科目〉 ベトナム語1、ベトナム語11、ベトナム文学演習a、ベトナム文化講義a、b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 日本語とベトナム語の両言語で使われる熟語の意味・用法にある異同の考察

〈所属学会〉 東南アジア学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ベトナム語の感覚形容語 SẮC (鋭い) とその反義語 CÙN (鈍い) における 共感覚的メタファー—日本語との比較の観点において—」『外国語教育のフロンティア』3、大阪大学大学院言語文化研究科、2020年3月30日発行 (研究ノート)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ The Similarity in the meanings of the verb WAKU (沸く/湧く) in Japanese language and the group of similar words ending with -ôi, -uôi, -uôn, -uôi, -un, -ut in Vietnamese language (2019年7月26日～27日 国家大学所属ホーチミン市人文社会科学大学、ベトナム学科主催の「Issues of teaching Vietnamese and studying Vietnam in the today's world」をテーマとした国際シンポジウムでの口頭発表、原稿は富田健次との共同執筆)

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際交流委員会委員

Nguyen Thi Ngoc Tho, 特任講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論 VA、アジア言語文化表象論 VB、ベトナム語特別演習 A、ベトナム語特別演習 B

〈学部教育担当科目〉 ベトナム文学講義 a、ベトナム文学講義 b、ベトナム語 3、ベトナム語 15、ベトナム語 I a、ベトナム語 I b、ベトナム語 II a、ベトナム語 II b、ベトナム語 III a、ベトナム語 III b、ベトナム語 V a(B)、ベトナム語 V b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ベトナム語教育

〔ビルマ語〕

池田 一人 (IKEDA Kazuto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論 VIA・B、アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A・B、アジア地域社会論 A・B、歴史学方法論講義 A・B

〈共通教育担当科目〉 アジアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 ビルマ語 5、ビルマ語 15、ビルマ社会講義 Ia・b、ビルマ社会演習 Ia・b、東南アジア社会概論 a・b、言語文化比較交流論 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ビルマ史、19世紀ビルマの民族形成史、ビルマ地域の史観研究、ラカイン地域史

〈所属学会〉 東南アジア学会、Association for Asian Studies、史学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「泰緬鉄道建設をめぐる戦争記憶の比較史—日本人将兵、イギリス人捕虜、ビルマ人労務者—」秋田茂・桃木至朗編『グローバルヒストリーから考える新しい大学歴史教育—日本史と世界史のあいだで—』大阪大学出版会、2020年3月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「ロヒンギャ問題がビルマの歴史研究に問いかけるもの—ビルマ史、ラカイン史、イスラーム—」アジア太平洋研究会 2019年6月2日
- ・「東南アジア大陸部における前近代国家の存立様態と近代国境線の成立過程について—19世紀ビルマとタイを中心に—」国境研究会「北東アジアと東南アジアの邂逅」 2019年7月13日 国境研究会
- ・“Rohingya and Rakhine in Myanmar: A Case of History Education and Nation in Southeast Asian Studies.” presentation given at the Final Symposium: *Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality*. 2019年8月6日 グローバル展開プログラム「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」
- ・「ミャンマーのロヒンギャ問題について—東南アジア大陸部の「民族」と「歴史」を考える—」大阪大学歴史教育研究会第124回例会 2019年10月19日 大阪大学歴史教育研究会
- ・“History and Nation in Myanmar: Making a National Past among Rakhine Buddhist and Rohingya Muslim.” presentation given at the International Symposium: *Muslim Minorities in Southeast Asia*, held at Minoh Campus, Osaka University on 1st Nov. 2019. sponsored by OUFAS, Osaka University, and Kyoto University IPCR Research Project “Historical Studies on Spread and Acceptance of Islam through Interactions between South and Southeast Asia.”
- ・「ミャンマーのいまを歴史的に考える—アウンサンスーチーとロヒンギャ問題—」朝日カルチャーセンター／Handai-Asahi 中之島塾 2019年12月7日

〈研究助成〉

- ・科研費基盤研究 (A)「ゾミア 2.0：『東南アジア』と『南アジア』の境域における開発・民族・宗教」（研究代表者：今村真央、課題番号：18H03599、2018～2022年度）研究分担者
- ・科研費基盤研究 (B)「声の実践によるテキスト共同体—東南アジア大陸部の仏教写本をめぐる宗教実践」（研究代表者：村上忠良、課題番号：19H04351、2019～2022年度）研究分担者
- ・京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」タイプ IV 「イスラーム受容体としての東南アジア：上座部仏教社会におけるムスリム共生の歴史的・人類学的研究」（研究代表者：池田一人、2019～2020年度）

〈調査活動〉

- ・2019年9月6日～21日ミャンマー・ヤンゴン市などにおける科研の史料調査
- ・2020年2月16日～24日ミャンマー・ヤンゴン市などにおける科研の史料調査
- ・2020年3月9日～20日イギリス・ロンドン市における科研の史料調査

[その他の活動]

〈管理運営〉入試委員会委員、図書委員会委員

〈学会活動〉東南アジア学会編集担当理事

井上 さゆり (INOUE Sayuri) 准教授

<https://inoues.myportfolio.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 XVIII A、アジア言語文化表象論 XVIII B、アジア・アフリカ文化表象論特別研究A、アジア・アフリカ文化表象論特別研究B、現代超域文化論（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習（ビルマ語）

〈学部教育担当科目〉ビルマ語 1、ビルマ語 2、ビルマ語 11、ビルマ文化演習 Ib、ビルマ文学講義 Ia、ビルマ文学講義 Ib、世界文学・文化論講義（リレー講義）

[研究活動]

〈研究テーマ〉ビルマ古典音楽、ビルマ音楽史、ビルマ古典文学

〈所属学会〉東南アジア学会、東洋音楽学会、日本口承文芸学会、Burma Studies Group、The Society for Ethnomusicology、International Council for Traditional Music

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・共著・金子亜美, 小倉志徳, 神野知恵, 田中有紀, 井上さゆり著『音楽を研究する愉しみ: 出会う、はまる、見えてくる』(担当ページ、井上さゆり「私にとってのミャンマー音楽研究—文献研究と実践」pp. 69-83)、2019年10月、風響社。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ *Bazat-hsaing* or Mouth-music: Oral Transmission Systems of Burmese Classical Songs, Sayuri Inoue, 45th ICTM (International Council for Traditional Music) Conference, Bangkok, Thailand, 2019年7月, 国際会議 (proceedings なし)
- ・ Some features of the formation of genre in Burmese Classical Songs: Using Burmese as an indispensable language, Sayuri Inoue, Workshop “Myanmar studies without Burmese?” by The School of Culture, History and Language, ANU (The Australian National University), Canberra, Australia, 2020年3月, 国際会議 (proceedings なし)

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成事業 (科研費) 基盤研究 (C) 「ビルマ古典歌謡における口頭伝承システムと口唱歌の記述研究」平成30~32年度 研究代表者

〈調査活動〉

- ・ 2019.4.7~9.24 ミャンマー・マンダレー市 (音楽の口頭伝承に関する調査)
- ・ 2020.3.9~3.18 オーストラリア・キャンベラ・オーストラリア国立大学 (ビルマ語オンライン授業の調査、ビルマ語教材意見交換、ワークショップでの口頭発表)。

大塚 行誠 (OTSUKA Kosei) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 VII A・B、アジア言語構造論 XIV A・B、アジア・アフリカ言語構造論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習（ビルマ語）

〈学部教育担当科目〉 ビルマ語 3、ビルマ語 12、ビルマ語 IIa、ビルマ語 IIb、ビルマ語学演習 I a、ビルマ語学演習 I b、ビルマ語学演習 IIa、ビルマ語学演習 IIb、教科教育法（ビルマ語） a、教科教育法（ビルマ語） b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 クキ・チン系言語およびミャンマーで話されている諸言語の研究

〈所属学会〉 日本語学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Kosei OTSUKA: The Influence of Burmese on Asho Chin Grammar. Workshop on linguistic and cultural diversity in the Northeast India-Myanmar-Southwest China region, Nanyang Technological University, Singapore, 2019.8.6.
- ・ Kosei OTSUKA: Burmese loanwords in Asho Chin. TaLK (Theoretical Linguistics at Keio) 2019: Myanmar Linguistics, State of the Art, Keio University, Tokyo, 2019.11.2.

〈研究助成〉

- ・ 若手研究(B) 「インド北東部におけるボム語の調査と文法記述」 (研究代表者: 大塚行誠、課題番号: 17K13442、2017年度～2019年度)
- ・ 基盤研究(B) 「ビルマの危機言語に関する緊急調査研究」 (研究代表者: 倉部慶太、課題番号: 17H04523、2017年度～2019年度)
- ・ 科研費基盤研究(A) 「ゾミア 2.0 : 「東南アジア」と「南アジア」の境域における開発・民族・宗教」 (研究代表者: 今村真央、課題番号: 18H03599、2018～2022年度)

〈調査活動〉

- ・ 2019年8月23日～2019年9月16日 ミャンマーにおける科研調査
- ・ 2020年2月8日～2019年2月14日 ミャンマーにおける科研調査

[その他の活動]

〈管理運営〉 紀要委員

テッテッ (Htet Htet) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ビルマ語特別演習 A,B、アジア言語文化表象論 VIIA,B

〈学部教育担当科目〉 ビルマ文学演習 Ia,b、ビルマ語 13、ビルマ語 14、ビルマ語 4 (豊中開講)、ビルマ語 IVa,b、ビルマ語 Ia,b、ビルマ語学講義 I a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ビルマ語学、ビルマ語教育

[研究業績]

〈研究ノート〉

- ・ Htet Htet (2020) တိရစ္ဆာန်အမည်နှင့် မြန်မာမှုဝေါဟာရများ [動物名とミャンマーの文化に関わる語彙] 大阪大学大学院言語文化研究科『外国語教育のフロンティア』3.

【アジアⅢ講座】

〔ヒンディー語〕

長崎 広子 (NAGASAKI Hiroko) 准教授

<http://hin.minoh.osaka-u.ac.jp/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論 III、現代超域文化論（リレー講義）、アジア・アフリカ言語社会研究序説（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習（ヒンディー語1）

〈学部教育担当科目〉ヒンディー語4、ヒンディー語13、ヒンディー語III、ヒンディー文学演習III、インド文化史講義I、世界文学・文化論（リレー講義）

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉

- ・中世ヒンディー文学研究、ヒンドゥー教バクティ思想研究、ヒンディー韻律研究

〈所属学会〉日本印度学仏教学会、日本南アジア学会、American Oriental Society（米国）

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ヒンディー韻律書に著された算数、印度民俗研究、18・73-95、2020年03月

〈研究助成〉

- ・15-6世紀ヒンディー語3文芸方言の作品と言語の横断的研究(科学研究費補助金基盤研究(C)2019.4.1-2022.3.31; 研究代表者)

〈調査活動〉

- ・Sixth Braj Bhasha/ early Hindi Workshop (Gatchina: 2019.7.19-8.02)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉大学院言語文化研究科言語社会専攻教務委員、外国学部教務委員会委員、ヒンディー語専攻代表、協定校コンタクト・パーソン（ジャワーハルラール・ネルー大学）

〈学会活動〉Braj Bhasha/ early Hindi Workshop Committee member、

International Conference on Early Modern Literatures of North India Committee member

〈社会貢献活動〉

阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン「出産と子育て—インドの通過儀礼をとおして—」, 2019年10月7日, 於: みのお市民活動センター

西岡 美樹 (NISHIOKA Miki) 准教授

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/dumas/>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 XV (a/b)

〈共通教育担当科目〉 ことばの世界

〈学部教育担当科目〉 ヒンディー語 3、ヒンディー語 11、ヒンディー語学演習 I(a/b)、ヒンディー語学演習 II(a/b)、南アジア語学演習 I(a/b)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ヒンディー語と日本語の対照研究、ヒンディー語の周辺諸語との類型論的比較研究、ヒンディー語ウェブコーパスと検索システムの開発

〈所属学会〉 日本言語学会、言語科学会、日本南アジア学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Genre Effects of Compound Verbs in Hindi-Urdu: A Comparative Study of Jānā with Japanese Verb Shimau in Translations, Miki NISHIOKA, *Translation, Nation and Knowledge Society: A Special Issue of the Translation Today*, pp.28-42, Mysuru: National Translation Mission, 2020.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ How Similarly Do Hindi *rakhnā* and Japanese *oku* PUT Behave as a V2?: A Corpus-based Comparative Analysis in Hindi and Japanese, Miki Nishioka, 35th South Asian Languages Analysis Roundtable (SALA-35) at INALCO, Paris, October 2019.
- ・ The Many Ways of Returning to the Refrain in Telugu Song, K. V. S. Prasad, Miki Nishioka, Prasanth Kolachina, 35th South Asian Languages Analysis Roundtable (SALA-35) at INALCO, Paris, October 2019.
- ・ Nominalization in Bihari Languages, Rajesh Kumar, Miki Nishioka, Osaka International Workshop on Nominalization at Osaka University, September 2019.
- ・ Where is the Line Between *Kā* and *Vālā*?: A Comparative Case Study of Genitival Constructions in Hindi and Japanese, Miki Nishioka, अंतरराष्ट्रीय हिंदी सम्मेलन: विदेशी भाषा/द्वितीय भाषा के रूप में हिंदी (International Conference on Hindi as a Second / Foreign Language) at University of Lisbon, June 2019.

[その他の活動]

〈管理運営〉 安全衛生委員、外国語学部入試委員会委員

〈社会貢献活動〉 出張模擬授業（関西大倉高等学校）、[市民講座2019] 複言語学習のススメ（大阪大学）、公開講演「ビハール地方のことばとアイデンティティ」（講演者：Dr. Rajesh Kumar, IIT Madras、2019年度大阪大学国際合同会議助成事業）

拓 徹 (TAK Toru) 助教

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論IV A・B、グローバル地域研究方法論（リレー講義）

〈学部教育担当科目〉 ヒンディー語 4、ヒンディー語 12、南アジア文化概論 a・b、南アジア文化演習IIIa・b、南アジア歴史演習 a・b

〈共通教育担当科目〉 アジア言語文化研究入門（秋～冬学期のみ）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 カシミール紛争史、南アジアにおける宗教と政治

〈所属学会〉 日本南アジア学会、日本宗教学会

[研究業績]

〈単著〉

- ・『印度人為什麼天天吃咖哩？：超ㄎㄨㄛ、超莫名但又超有道理的印度文化』時報出版、2019（『インド人の謎』、星海社新書、2016 の台湾版、Veda S. 訳）

〈口頭発表〉

- ・“Three Levels of Muslim Politics and the Transformation of Kashmiri Political Consciousness, 1960s-1980s”, 11th ICAS, Leiden (ライデン大学、2019年7月18日)
- ・「現在のカシミール情勢を考える」、笹川平和財団研究会（笹川平和財団、2019年9月27日）
- ・「南アジアの改革派イスラーム：デーオバンド派を中心に」、IPCR 第4回研究会（阪大箕面キャンパス、2020年3月2日）

〈研究助成など〉

- ・研究代表者 基盤研究 C、「セキュラリズムをめぐる文化の政治とイスラーム：カシミールの事例から」
- ・研究分担者 基盤研究 A、「民主主義体制における少数派排除のグローバル化—アジア・アフリカの比較研究（研究代表者：中溝和弥）」
- ・共同研究員 東京外大 AA 研共同課題「「インド世界」の形成：フロンティア地域を視座として」（代表者：小倉智史）

[その他の活動]

〈管理運営〉 国際交流委員、協定校コンタクト・パーソン（デリー大学、ティラク・マハーラーシュトラ大学）

Singh Ved Prakash, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Seminar In Hindi A, Asian Languages and Cultural Representations XA

<Foreign language classes> Hindi 5, Hindi 14, Hindi 15, Hindi I, Hindi language III, Hindi Literature II, Culture of South Asia 3

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Modern Hindi Literature and Gandhian philosophy

[Research achievements]

<Papers>

- Some Thought of Gandhiji about Japan, Frontier of Foreign Language Education 3, 2020, ISSN 2433-9636, pp. 301-310
- Japan according to Gandhi's view, Himanjali, January-March 2019, ISSN 2349-4905, Indian Institute of Advance Studies, Shimla, India, Editor Dr. Ramashanker Singh, Dr. Manisha Chaudhary, pp. 47-52
- Short Stories of Death and Hopeless life, Baya, January-March 2020, ISSN 2321-9858, Editor Gauri Nath, pp. 161-164

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- Birth Related Indian Rituals, 17 October 2019, Minoh-shi, Japan
- Importance of Human Labor in Japanese Education System, 23 February 2020, Pithoragarh, India
- History of Hindi Language Teaching in Japan, 26 February 2020, DSC Delhi University, India
- Japan-India Relationship, 7 March 2020, ITM University, Gwalior, MP, India

[Other activities]

<Academic society activities>

- Directed a Hindi Play Eidgah, 25 November 2019, Osaka University, Minoh Campus

〔ウルドゥー語〕

松村 耕光 (MATSUMURA Takamitsu) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論

〈学部教育担当科目〉 ウルドゥー語実習、ウルドゥー文学演習、ウルドゥー語学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 近代ウルドゥー文学

〈所属学会〉 日本南アジア学会、日本印度学佛教学会

[研究業績]

〈翻訳〉

- 「ガザル (3) —イクバルのウルドゥー詩 (13)」 『イスラーム世界研究』 第13巻 (2020年3月)

[その他の活動]

〈管理運営〉 大学院言語文化研究科言語社会専攻アジア III 講座代表、ウルドゥー語部会長、ウルドゥー語専攻代表

山根 聡 (YAMANE So) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論IIIa,b

〈学部教育担当科目〉 ウルドゥー語2、ウルドゥー語12、南アジア文化概論 a,b、ウルドゥー語IIIa,b

南アジア文化演習 I a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ウルドゥー文学、南アジア・イスラーム論

〈所属学会〉 日本南アジア学会、大阪大学言語社会学会、アジア政経学会、西南アジア研究会、日本印度学仏教学会、日本オリエント学会

[研究業績]

〈研究助成〉

- 研究分担者 基盤研究B、「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」(研究代表者：菅原由美)

- ・研究分担者 基盤研究 B、「暴力による民主主義の 20 世紀：トランスナショナルヒストリーの試み」(研究代表者：長縄宣博)

[その他の活動]

〈管理運営〉 副理事(財務担当)、副研究科長

〈学会活動〉 日本南アジア学会理事

北田 信 (KITADA Makoto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 前年度と同じ

〈共通教育担当科目〉 前年度と同じ

〈学部教育担当科目〉 前年度と同じ

[研究活動]

〈研究テーマ〉 南アジアの言語と文学、芸能

〈所属学会〉 日本南アジア学会、日本インド学仏教学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ネパールの演劇写本 ジャガトプラカーシャ・マッラ王のネワール語歌集」南アジア古典学、第 14 号、九州大学
- ・Kitada, Makoto 2020: “Jagatprakāśa Malla’s songs in Newar language. Report on the study of the court theater of the Malla dynasty” 邦題『ジャガトプラカーシャ・マッラ王の古典ネワール語歌集、ネパール・マッラ王朝の宮廷演劇写本研究・研究成果報告』(Published on the Osaka Univ. directory (OUKA), <http://hdl.handle.net/11094/73756>)
- ・“Bengali drama from Nepal. Vidyāvinoda. A romanized text based on the manuscript. Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty.” 邦題「ネパールの演劇写本：マッラ朝のベンガル語演劇写本 Vidyāvinoda」研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/71692>) 2019 年 4 月 15 日公開
- ・“Kṛṣṇacaritra. A Bengali drama from the 16th century Nepal. A Romanized text based on the manuscript. Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty.” 研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/71983>)、2019 年 5 月 20 日公開
- ・“Baṛu Caṅḍidās parallel in the Āśā Archives of Kathmandu Report on the research of dramatic manuscripts in Nepal of the Malla dynasty.” 邦題「ネパール・マッラ王朝のベンガル語演劇写本、アシャ古文書館写本に含まれるボル・チョンディダシユ詩」研究成果報告、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/73440>) 2019 年 10 月 30 日公開
- ・“The fourth Caryāpada still being chanted in Kathmandu today : Cacā song, Trihaṅḍā.” 研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/73441>) 2019 年 11 月 1 日公開
- ・“The Vajragīti of the Hevajratantra still sung in Kathmandu.” 研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/73686>) 2020 年 1 月 8 日公開
- ・“Gokūdahana.” 研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/73686>) 2020 年 1 月 20 日公開
- ・“Cacā song, Savākrāntā.” 研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/73729>) 2020 年 1 月 23 日公開

- ・“Cacā song, Namo huṃ.” 研究成果報告書、阪大 OUKA (<http://hdl.handle.net/11094/73731>) 2020年1月30日公開
〈翻訳・翻訳書〉
- ・「静寂の楽師—前衛詩人・印度学者ルネ・ドーマルによるインド音楽・舞踊についての評論」 「ヨーロッパ超
域研究1」言語社会共同研究プロジェクト2019、99 - 113
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・「ネパールの“村神楽”：カトマンドゥ盆地山村のカルティク・ナーチ演劇祭」日本南アジア学会第32回全国
大会、慶應義塾大学日吉キャンパス、2019年10月6日
- ・〔招待講演〕“Baṛu Caṇḍidās’ parallels in the dramatic manuscripts from Kathmandu.” 国際学会 DUI BANGLA :
Bangladesh and West-Bengal from Environmental Issues to Cultural Perspectives. シカゴ大学パリ・センターおよびフ
ランス国立東洋言語文化研究院 (INALCO) 共催、2019年12月16日
- ・〔招待講演〕“The Cacā, or Esoteric Buddhist Hymns: Text and Practice in Nepal.” 研究セミナー Music Histories of the
Kathmandu Valley: Performance and the Archive. 於大英博物館、SOAS 主催
〈調査活動〉
- ・2019年8月インド・西ベンガル州現地調査
- ・2019年9月、11月ネパール現地調査
- [その他の活動]
- 〈社会貢献活動〉
- ・「ラーガターラ 旅する Live!!@牛窓 インドの演劇・絵画と古典音楽を求めて」北田信（レクチャー、サロー
ド演奏）高根忠司（タブラ演奏）テレヤ・カフェ（牛窓）2019年6月9日
- ・「インドの愛の詩と音楽～詩のレクチャーとインド音楽演奏」北田信（レクチャー、サロード実演）立岩潤三
（タブラ演奏）、Pema Gallery（東京）2019年11月2日

マルグーブ・フセイン・ターヒル (TAHIR, Marghoob Hussain) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 XII、ウルドゥー語特別演習

〈学部教育担当科目〉ウルドゥー語 4、ウルドゥー語 5、ウルドゥー語 14、ウルドゥー語 15、ウルドゥー語 I、
ウルドゥー語 II、ウルドゥー文学演習 II、ウルドゥー文学演習 V

[研究活動]

〈研究テーマ〉ウルドゥー語文学

【アジア・アフリカ講座】

【アラビア語】

近藤 久美子 (KONDO Kumiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論 VIII、地域知識論特定研究 II

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目(中東の文化と社会を知る)

〈学部教育担当科目〉 アラブ文学講義、アラブ文学特別演習、アラビア語演習 VIII、アラビア語 14、アラビア語
2、地域知識論 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラブ古典文学、アラビア語文法、アラブ民俗文化

〈所属学会〉 日本中東学会、説話・伝承学会、日本昔話学会、東アジア恠異学会、世界文学会

依田 純和 (YODA Sumikazu) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論・アジア・アフリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 3・1 2 (実習) ・アラビア語中級 (兼修外国語) ・アラビア語学特別演習・
アラビア語 I ・マルタ語 (研究外国語) ・ヘブライ語 (研究外国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラビア語方言論・セム語諸語研究・マルタ語学

〈所属学会〉 日本中東学会・International Association of Maltese Linguistics・Association Internationale de Dialectologie
Arabe・関西アラブ研究会

[研究業績]

〈単著・共著〉

- ・ (共著) 鷺見朗子編著・依田純和／福田義昭／竹田敏之／富永正人『例文で学ぶアラビア語単語集』大修館書店 (2019年9月)

〈論文〉

- ・ “Texts from Mahdīya (Tunisia)” *Journal of Arabic and Islamic Studies* 17 (2019) 55-70.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ “Some pre-Hilalian features in the Arabic dialect of the Jews of Tripoli” in *13th Conference of Association Internationale de Dialectologie Arabe in Kutaisi (June 10-13, 2019)*.

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員

〈学会活動〉 関西アラブ研究会編集委員

〈社会貢献活動〉

- ・ NHK 語学講座「アラビヤ・シャベリヤ」テキスト執筆および番組監修

福田 義昭 (FUKUDA Yoshiaki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論 X III、世界文学・文化論

〈共通教育担当科目〉 【人文】 外国の文学を知る (現代アラブ文学を読む)

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 1・2・11、アラブ文学特別演習 I、アラビア語初級、現代超域文化論 (M)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラビア語、アラブ文学、日本・中東イスラム関係史

〈所属学会〉 日本中東学会、日本オリエント学会、関西アラブ研究会

[研究業績]

〈単著・共著〉

- ・ (単著) 『昭和文学のなかの在日ムスリム』 (ACRI Research Paper Series 16) 東洋大学アジア文化研究所 (2020年2月、88頁)。
- ・ (共著) 鷺見朗子編著・依田純和/福田義昭/竹田敏之/富永正人『例文で学ぶアラビア語単語集』大修館書店 (2019年9月)

〈論文〉

- ・ “Limādhā Yutarjimūna al-Adab al-‘Arabī ilā al-Lughā al-Yābāniyya?: Nazra ‘alā al-Nuṣūṣ al-Muḥādhiya li-l-A‘māl al-Mutarjama,” in ‘Abd al-Ḥakīm Shubāt ed., *Al-Tarjama wa-Ishkālāt al-Muthāqafa* (5) (“Why Do They Translate Arabic Literature into the Japanese Language?: A Look at the Paratexts of the Translated Works,” in *Translation and the Problematics of Cross-Cultural Understanding* (5)), Doha: Muntadā al-‘Alāqāt al-‘Arabiyya wa-al-Dawliyya (2019.12).

〈口頭発表〉

- ・ 「アラブ諸国国歌研究の課題と展望 ——エジプト国歌の事例を中心に」 《ワークショップ》「音楽とグローバル関係学」主催：科学研究費助成事業（新学術領域研究）「グローバル関係学」B01班「規範とアイデンティティ」B02班「越境的非国家ネットワーク」（東京大学東洋文化研究所、2019年11月10日）

〈研究助成〉

- ・ 基盤研究（C）「近現代アラブ文学における地理的世界表象に関する基礎研究」2019–23年度（研究代表者）

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員長

〈学会活動〉 日本中東学会年報編集委員

〈社会貢献活動〉

- ・ (出張講義) 「神戸とイスラーム——異文化を学んで文脈をひろげよう」(兵庫県立兵庫高等学校、2019年12月20日)
- ・ 兵庫県教育委員会「子ども多文化共生サポーター」(アラビア語) 任用のための面接員 (2020年2月20日)。

仲尾 周一郎 (NAKAO Shuichiro) 講師

<https://researchmap.jp/shuichiro.nakao/>

<http://fieldnet.aa-ken.jp/openpne/web/member/717>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論 V

〈共通教育担当科目〉 中東の文化と社会を知る b

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 3、アラビア語 4、アラビア語 14、アラビア語 II、アラブ文化論特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 記述言語学、言語接触論、東アフリカ多言語社会研究

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本ナイル・エチオピア学会、国際アラビア語方言学会、世界アフリカ言語学会
会議、関西アラブ研究会、The Japan Association for Ethiopian Linguistics

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ “Fundamental Dialogues in Berta/Funj (1)”, *Studies in Ethiopian Languages* 8: 20-55.
- ・ 「アラビア語における動詞連続一言語類型論的視点の外国語教育への応用試論」『外国語教育のフロンティア』3: 265-283.

〈書評・論評・紹介〉

- ・ “BOOK REVIEW: Muḥammad Al-Šarqāwī, Al-‘Arabiyya fi Šarq ’Ifriqiyyā: Muqaddima fi al-Tahjīm al-Luġawī [Arabic in East Africa: Introduction to Pidginization and Creolization] (al-Qāhira: al-Hay’a al-Miṣriyya al-‘Āmma lil-Kitāb, 2017). 233pp. Paperback E£ 17.00.” 『アラブ・イスラム研究』17: 75-78.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 「西アフリカ変体アラビア語—アフリカ文字言語史への一視座—」日本アフリカ学会第56回学術大会, 京都精華大学, 京都, 2019年5月19日.
- ・ “Did Pre-diasporic Arabic Have two Ejectives? Evidence from Caucasus, South Arabia and Africa”, Association Internationale de Dialectologie Arabe, 13th International Conference, Akaki Tsereteli State University, Kutaisi, June 18 2019.
- ・ 「西アフリカ変体アラビア語とその周辺」第7回西アフリカ・イスラーム／歴史研究会, 京都精華大学, 京都, 2019年8月20日.
- ・ “Swahili influence on Nubi (Arabic creole): An update from Kibera”, International Workshop: Sociolinguistic Perspectives on Variation in Swahili - New Approaches to the Study of Language and its Social Context in East Africa, Johannes Gutenberg University Mainz, November 30, 2019.
- ・ 「ベルタ語における焦点小辞 *ninēn*」、「係り結び関連現象の通言語的研究に向けて」研究会（主催：科研費(新学術領域)「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」公募班「日琉諸語の歴史と発展についての総合的研究に向けて」），大阪大学, 豊中, 2019年12月14日.
- ・ 「ベルタ語、ベニシヤングル・アラビア語、ジュバ・アラビア語と受動に相当する諸構文」2019年度第2回「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」(科研費・基盤研究(B)研究課題)研究会, 大阪大学, 箕面, 2020年1月23日.
- ・ 「クレオールを超えて：ナイロビ・キベラにおけるヌビ語・スワヒリ語・シェン」2019年度第2回「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」共同利用・共同研究課題研究会, 東京外国語大学言語文化研究所, 府中, 2月16日.

〈研究助成〉

- ・ 国際共同研究強化(B) (研究課題番号：18KK0009、研究代表者：乾秀行) 「エチオピア諸語の記述とドキュメンテーション：ソーシャル・イノベーションにむけて」(2018-2022) 分担者
- ・ 基盤研究(B) (研究課題番号：19H01254、研究代表者：小森淳子) 「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」(2019-2022) 分担者

- ・若手研究 (研究課題番号: 19K13160、研究代表者: 仲尾周一郎) 「語彙調査によるアラビア語クレオール脱クレオール化」の解明: 接触言語学への視座 (2019-2022) 代表者

〔調査活動〕

- ・ケニア/ナイロビ市内 (アラビア語クレオールに関するフィールドワーク) : 2019年8月31日—9月9日

〔その他の活動〕

〔管理運営〕 図書委員会、研究・広報・社会貢献委員会

〔学会活動〕 『アラブ・イスラム研究』 (関西アラブ研究会) 編集委員、『京都大学言語学研究』 編集委員、*Studies in Ethiopian Languages* (Japan Association for Ethiopian Linguistics) 編集委員、*Swahili Forum* 査読、*Open Linguistics* 査読

〔社会貢献活動〕 MISIA (著)・大宮エリー (イラスト) 『ハートのレオナ』 (主婦と生活社) 付録「アフリカ54か国紹介」監修

Abdelrahman Tareq Sadeq Elsharqawy, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Teaching Arabic Language and Culture courses.

<General Education classes> Teaching Arabic Islamic Culture courses about Language, society, history, Culture and literature.

<Foreign language classes> Arabic for Arabic department students in different levels and for other departments.

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Modern Arabic Literature, Translation.

[Research achievements]

<Papers>

- ・ Historiography of Arabic translation in The 19th Century. Kansai Journal for Arabic Islamic studies. vol.19
- ・ Studying Arabic in Jordan. Frontier of Foreign Language Education, Vol.3

〔ペルシア語〕

藤元 優子 (FUJIMOTO Yuko) 教授

〔教育活動〕

〔研究科担当科目〕 アジア言語文化表象論 XV A/B、アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A/B

〔共通教育担当科目〕 中東の文化と社会を知る a

〔学部教育担当科目〕 ペルシア語 2、ペルシア語 12、ペルシア文学講義 a/b、ペルシア文学演習 a/b、ペルシア語 V a/b

〔研究活動〕

〔研究テーマ〕 イラン現代文学とジェンダー

〔所属学会〕 日本中東学会、日本オリエント学会、北米イラン学会

〔研究業績〕

〔翻訳・翻訳書〕

- ・『ゾヤ・ピールザード選集 復活祭前日』大同生命国際文化基金、2019. 11.

〈研究助成〉

- ・科学研究費基盤研究（C）「1980年代から2000年代のイランにおける女性小説の研究」（研究代表者）

[その他の活動]

〈管理運営〉外国学図書館副館長、全学入試委員会委員

〈学会活動〉ペルシア語教育に関する研究会（日本学術振興会外国人招へい研究者受入研究者として大阪大学

（2019.10.12.）および大東文化大学（2019.10.29.）で実施）

竹原 新 (TAKEHARA Shin) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論 VIA、アジア言語文化資源論 VIB

〈共通教育担当科目〉中東の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ペルシア語3、ペルシア語13、ペルシア語Ⅲa、ペルシア語Ⅲb、イラン文化特別演習 a、イラン文化特別演習 b、イラン文化講義 a、イラン文化講義 b

[研究活動]

〈研究テーマ〉イランの民話と俗信に関する研究

〈所属学会〉日本オリエント学会、説話・伝承学会、日本昔話学会、大阪大学言語社会学

会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・竹原新、ベヘナム・ジャヘドザデ『ペルシア語』（世界の言語シリーズ15）、大阪大学出版会、2020年。

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院言語文化研究科言語社会専攻／日本語・日本文化専攻ネットワーク管理委員会委員、大学院言語文化研究科言語社会専攻／日本語・日本文化専攻コンテンツ管理委員会委員

〈学会活動〉説話・伝承学会委員、日本昔話学会委員

ジャヘドザデ・ショルブラグ・ベヘナム(JAHEDZADEH SHORBLAGH Behnam) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉中東・アフリカ言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉ペルシア語演習、ペルシア語Ⅳ、アジア言語構造論、ペルシア語Ⅱ、イラン語学講義、ペルシア語1

〈研究テーマ〉ペルシア語の対照比較的研究

〈所属学会〉関西言語学会、大阪大学言語社会学会、言語の類型的特点をとらえる対照研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・竹原新、ベヘナム・ジャヘドザデ『ペルシア語』（世界の言語シリーズ15）、大阪大学出版会、2020年。

〈論文〉

- ・ JAHEDZADEH Behnam, 「ペルシア語における動詞の有標性と学習者による習得の困難度の予測」2020年, 『イラン研究』第16号, pp.32-46.
- ・ HOSSEINI, Ayat. JAHEDZADEH Behnam, “A Survey of Uses of Dictionaries Among Learners of Japanese Language in Iran” *Frontier of Foreign Language Education*, 2020年, No3. pp. 71-86.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ JAHEDZADEH Behnam, HOSSEINI, Ayat, “The Necessity of Linguistic Knowledge in Second Language Learning”, presented in 45th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition WINC AICHI, Nagoya City, Aichi, Japan, on November 2, 2019.

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 大学院入試委員会委員

〈社会貢献活動〉

- ・ Jahedzadeh Shorblagh Behnam, 『中東からの生の声』 箕面市国際交流協会(MAFGA)における箕面市民への公開講座 (2019年8月～9月合計5回)

REZAI BAGHBIDI Hassan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Middle Persian; Introduction to Iranian Linguistics

<Foreign language classes> Elementary Persian; Intermediate Persian; Advanced Persian

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Historical Linguistics; Indo-Iranian Linguistics

<Academic society memberships> Academy of Persian Language and Literature; International Association of Sanskrit Studies

〔トルコ語〕

大澤 孝 (OSAWA Takashi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論、アジア・アフリカ言語文化論序論

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 トルコ語 12a,b, トルコ語 IIa,b, トルコ語学概論 a,b, トルコ歴史講義 a,b, トルコ文化演習 a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中央ユーラシアのテュルク系遊牧民の歴史と文化, 古代テュルク語碑文と遺跡のフィールド調査

〈所属学会〉 内陸アジア学会, 西南アジア研究学会, 北海道大学文学部東洋史談話会会員, 国際 Signum 学.

[研究業績]

〈研究助成〉

- ・ 日本学術振興会科学研究費 国際共同研究加速基金 B (代表研究者; 平成 30～33 年度) .

〔その他の活動〕

〈学会活動〉トルコ共和国トルコ語研究誌3誌の査読委員会委員、ロシア連邦ハカス共和国言語歴史文学研究所発行の国際研究雑誌「サヤン-アルタイ学報」の査読委員会委員

藤家 洋昭 (FUJIE Hiroaki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論、ウイグル語

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習（トルコ語）I

〈学部教育担当科目〉トルコ語3、トルコ語13、トルコ語III、チュルク語学演習、トルコ語学演習、ウイグル語

[研究活動]

〈研究テーマ〉チュルク諸語の記述言語学的研究

〈所属学会〉言語処理学会、日本言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ウイグル語における再帰態を表す動詞」『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』1309-1312, 2020年3月.
- ・「カザフ語における自動詞を形成する形式」『外国語教育のフロンティア』3, 87-94, 2020年3月.

〈調査活動〉

- ・チュルク諸語の記述言語学的フィールド調査

[その他の活動]

〈管理運営〉トルコ語学科目代表、トルコ語部会主任、アジア・アフリカ講座代表、設備・施設マネジメント委員、外国語学部総務委員、外国語学部評価委員

宮下 遼 (MIYASHITA Ryo) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉マチカネゼミ(オスマン帝国史研究入門)

〈学部教育担当科目〉トルコ語1、トルコ語I、トルコ文学講義、トルコ語11、トルコ文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉トルコ文学(史)、トルコ文化史

〈所属学会〉日本イスラム協会、世界文学学会、日本中東学会、地中海学会、日本オリエント学会

〈研究課題〉

- ・近世オスマン帝国のもの書く人々の社会生活および美意識の変遷についての社会史研究
- ・現代トルコ文学における社会性についての書誌学的研究

[研究業績]

〈編著書〉

Esin Esen and Ryo Miyashita (eds.), *Shaping The Field of Translation: In Japanese ↔ Turkish Contexts*, 2 vols., Berlin, Peter Lang, 2019.

<訳書>

(訳書)オルハン・パムク『赤い髪の女』宮下遼訳、早川書房、2019.

<論文>

(論文)宮下遼「民間信仰を売る:トルコの邪視除け護符ナザル・ボンジュウ」『この世のキワ:〈自然〉の内と外』勉誠出版、2019, pp. 308-321.

(論文) Ryō Miyashita, “Translating the Turkish Personal Pronoun “Ben” into Japanese Role Languages,” *Shaping The Field of Translation: In Japanese ↔ Turkish Contexts*, Vol.1, E. Esen and R. Miyashita(eds.), Berlin, Peter Lang, 2019, pp. 85-106.

(論文) Ryō Miyashita, “Translating the Phonetic Elements of Divan Poetry into a Japanese Syllabic Poem Using Kundoku,” *Shaping The Field of Translation: In Japanese ↔ Turkish Contexts*, Vol.2, R. Miyashita and E. Esen (eds.), Berlin, Peter Lang, 2019, pp. 85-101.

<口頭発表>

(講演)「アジア文学の誘い@チェッコリー第 11 回『赤い髪の女』」於チェッコリー(東京神保町), 倉本さおり, 長瀬海, 宮下遼, 2020年2月22日.

(研究発表)「トルコ小説における父なし子:パムク『赤い髪の女』」中東現代文学研究会@京都大学, 2020年1月12日.

(講演)宮下遼「文学的題材としてのトルコ史の諸相:トルコ歴史小説小史」中東現代文学研究会公開講演会於京都大学, 2020年1月11日.

(講演)宮下遼「世界帝都を夢見る街イスタンブール:都市の記憶を歩く」NPO文化のとまり木主催於エル大阪, 2019年11月20日.

(講演) Ryō Miyashita, “Japonya’da Türk Edebiyatı Araştırmaları ve Çevirisi,” 4.Türkiye’de Japonya Çalışmaları Konferansı(JAD), Boğaziçi Üniversitesi, İstanbul, 28-29. 6. 2019.

(講演)宮下遼「世界帝都の夢を見る街:「ルームの地」の文学をめぐる」(地中海トーキング「港町:交流と創造」)第 43 回地中海学会大会於神戸大学, 2019年6月8日.

<その他>

(鼎談)「創作合評(第 526 回)「最高の任務」乗代雄介「青いポポの果実」三国美千子「星月夜」李琴峰」東直子, 宮下遼, 町屋良平, 『群像』, 2020-01, pp. 528-544.

(鼎談)「創作合評(第 525 回)「幼な子の聖戦」木村友祐「ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい」大前栗生「楓橋夜泊」藤代泉」東直子, 宮下遼, 町屋良平, 『群像』, 2019-12, pp. 466-481.

(鼎談)「創作合評(第 524 回)「百の剣」倉数茂「アフロディーテの足」太田靖久「仮の林」牧田真有子」東直子, 宮下遼, 町屋良平, 『群像』, 2019-11, pp. 546-561.

(エッセイ)宮下遼「21世紀、イスタンブール・モスク事情」『新潮』, 2019-09.

(雑誌記事)宮下遼「海外交流 2019年、日本におけるトルコ文化年:「トルコ至宝展」と「トルコ日本研究学会」を振り返って」『生産と技術』, 71(4), 2019, pp. 85-87.

<研究助成>

・科学研究費助成(若手研究(B)) (2017/4/1-2021/3/31)

・サントリー文化財団研究助成「イスラームと酒」

[その他の活動]

〈学会活動〉言語社会学会理事、トルコ文学研究会(代表、2015ー)

DİRİK, Seval 特任講師

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学、方言学、方言文法、意味論、形態論、統語論

〈所属学会〉日本言語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈調査活動〉

- ・トルコのチャナッカレ県アイヴァジュック町周辺で話される方言におけるモーダル形式に関する現地調査。

〔スワヒリ語〕

米田 信子 (YONEDA Nobuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アフリカ言語構造論、アフリカ言語構造論特別研究

〈学部教育担当科目〉専攻語実習スワヒリ語3、専攻語実習スワヒリ語11、スワヒリ語文法演習 a,b、アフリカ言語学概説 a, b、アフリカ地域文化演習 IIIa, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉バントゥ諸語の記述研究（複文、情報構造、とりたて表現、マイクロヴァリエーション）

〈所属学会〉日本言語学会、日本アフリカ学会、日本音声学会、日本文化人類学会、関西言語学会、国際バントゥ諸語学会、Association for Linguistic Typology

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『日本語と世界の言語のとりたて表現』野田尚史（編）東京：くろしお出版、2019。（総ページ数 360+iv、共著、担当「ヘレロ語のとりたて表現」pp.237-253）。

〈論文〉

- ・Contact-induced language divergence and convergence in Tanzania: Forming new varieties as language maintenance. Swahili Forum 26, 2019: 189-212. (Sayaka Kutsukake との共著)

〈研究助成〉

- ・科学研究費助成事業（科研費）基盤研究(C)「バントゥ諸語における主語のプロパティに関するマイクロヴァリエーション研究」2019～2021年度 研究代表者
- ・科学研究費助成事業（科研費）基盤研究(C)「所有・所在概念の連続性とその言語化にはたらく諸条件に関する言語横断的比較対照研究」（研究代表者：愛媛大学 今泉志奈子）2018～2020年度 研究分担者
- ・科学研究費助成事業（科研費）基盤研究(B)「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」（研究代表者：大阪大学 小森淳子）2019～2022年度 研究分担者

〈調査活動〉

- ・2019.8.28～9.10 ウガンダ（ガンダ語のデータ収集）

- ・ 2020.2.5~2.12 ミャンマー (JICA による語学教育支援に関する調査)
- ・ 2020.3.6~3.18 タンザニア (マテンゴ語のデータ収集)

[その他の活動]

〈管理運営〉 副理事 (共創機構担当 ~2019.8)、研究・広報・社会貢献委員、科研費相談員

〈学会活動〉 国際バントゥ諸語学会アジア代表常任委員、日本言語学会評議員／常任委員、関西言語学会運営委員／編集委員、国立国語研究所共同研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員／共同研究専門委員会外部審査委員

〈社会貢献活動〉 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、日本学術会議連携会員

- ・ 「未知の言語との遭遇ーフィールドワークから見えてくるアフリカ」第 48 回新鋭経営会. LIFE TREE TOWN まちラボ (2019 年 4 月 20 日)
- ・ 「ねえねえはかせ、アフリカってどんなところなの？」はんだいラボ@エキスポシティ. エキスポシティ (2019 年 4 月 13 日)

竹村 景子 (TAKEMURA Keiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アフリカ言語社会構造論 I、アジア・アフリカ文化表象論特別研究

〈共通教育担当科目〉 アフリカの文化と社会を知る、アフリカ言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉 スワヒリ語 1、スワヒリ語 14、アフリカ地域文化特別演習 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉 スワヒリ語諸方言の文法記述、スワヒリ現代文学研究、女性のライフヒストリー研究

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本言語学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

・“Dialectal Variation in Swahili - Based on the Data Collected in Zanzibar” Swahili Forum 26: 45-59 (2019; Kumiko Miyazaki との共著)

・「スワヒリ語諸変種記述調査報告 (3)ートウンバトゥーゴマニ変種基礎語彙 600 語ー」『スワヒリ&アフリカ研究』 31: 35-53 (2020.3.25)

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 (基盤 C : 2019-2023 研究代表者「ザンジバルにおけるスワヒリ語諸変種の記述研究ー文法・語彙の差異に着目してー」)

・科学研究費補助金 (基盤 S : 2016-2020 研究分担者「「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服 : 人類の未来を展望する総合的地域研究」)

〈調査活動〉

・ 2019 年 8 月 12 日~23 日 : タンザニア連合共和国ザンジバル島にてスワヒリ語諸変種の記述調査

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語学部長、大阪大学教育研究評議員、大阪大学創立 90 周年・大阪外国語大学 100 周年記念事業

記念募金実行委員、全学教育推進機構運営協議会委員、大学院文学研究科・大学院言語文化研究科統合協議会委員、OU グローバルキャンパス（箕面新キャンパス）実現に向けた方策検討会議委員

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会監事

〈社会貢献活動〉

- ・2019年12月19日：「学問入門講演会」における講演「スワヒリ語と出会って33年を振り返る—アフリカ地域研究の面白さと魅力—」@兵庫県立北須磨高等学校

小森 淳子 (KOMORI Junko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉スワヒリ語初級

〈学部教育担当科目〉スワヒリ語2、スワヒリ語15、スワヒリ語I、西アフリカ諸語演習（バンバラ語）、アフリカ言語学講義、アフリカ地域文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉アフリカ言語学（ニジェール・コンゴ語族の動詞形態論・統語論研究）

〈所属学会〉日本アフリカ学会、日本言語学会

〈研究助成〉

科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」（研究代表者、2019-2022年度）

〈調査活動〉

2019年9月12～23日：マリ共和国（バマコ）バンバラ語の調査および言語資料の収集

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会全学委員、スワヒリ語部会主任／学科目代表

ISACK Zainabu Kassu, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Seminar in Swahili, Structures of African Languages IIa

<Foreign language classes> Seminar of Swahili Literature, Swahili 12, Swahili IIa, African Culture, Swahili 4, Swahili 5, Swahili 13.

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Applied Linguistics, Semantics, Sociolinguistics, Syntax, African Culture.

[Research achievements]

<Papers>

- ・ "Makuzi na Hatua za Maisha katika Utamaduni wa Kiswahili" in *Frontier of Foreign Language Education (1)* 2018, 105-118.
- ・ "Dhana na Dhima ya Familia katika Utamaduni wa Kiswahili" in *Frontier of Foreign Language Education (2)* 2019, 259-269.
- ・ "Utamaduni wa Kiswahili Juu ya Mambo yahasuyo Dini, Chakula, na Desturi za Mavazi" in *Frontier of Foreign*

【ヨーロッパ I 講座】

〔ロシア語〕

林田 理恵 (HAYASHIDA Rie) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 広域対照言語論, 広域対照言語論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ロシア語中級

〈学部教育担当科目〉 ロシア語専攻語実習, ロシア語学演習, ロシア語学講義, ロシア語専攻語演習, ロシア学入門

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 ロシア語状況意味論, ロシア語教育・学習理論

〈所属学会〉 JSSEES (Japanese Society for Slavic and East European Studies), 日本ロシア語教育研究会

〔研究業績〕

〔論文〕

- ・「ロシア語の学習者言語を探る — A2-B1 レベル学習者の従属複文使用 —」『ロシア語教育研究』10号, 2019年10月.
- ・「高校と大学をつなぐとは — 公開講義@北海道札幌国際情報高校の記録より —」『ロシア語教育研究』10号, 2019年10月.
- ・「科研費プロジェクト「日本語母語学習者データに基づくロシア語学習者コーパス構築の基盤研究」研究成果最終報告 — 学習者言語分析の可能性と将来的展望 —」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果最終報告, http://kyoiku-ru.org/files/3215/8510/3975/2019_200324.pdf, 2020年3月.

〔口頭発表・講演・学会報告〕

- ・「JRFLLCorpus の概要と今後の展望について—A2-B1 レベル学習者の従属複文使用—」日本ロシア語教育研究会東日本地区 2019年度研究例会, 於: 筑波大学東京キャンパス, 2019年6月.

〔研究助成〕

- ・文部科学省科学研究費補助金: 「日本語母語学習者データに基づくロシア語学習者コーパス構築の基盤研究」2017年度~2019年度 (基盤研究 (C)) 研究代表者
- ・受託研究: 文部科学省平成30年度グローバル化に対応した外国語教育推進事業「ロシア語教育における「主体的, 対話的で深い学び」とは?: 地域貢献のためのロシア語学習, 客観的指標 CEFR の導入, 多言語共生へのまなざし」研究担当 (2019年4月~2020年3月)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 全学学生生活委員会課外活動小委員会副委員長, 全学教育推進機構企画開発部全部門委員, ハラスメント相談室全学相談員

〈学会活動〉 日本ロシア語教育研究会会計監査 (2017年12月~)

〈社会貢献活動〉

- ・ 科研費プロジェクト講演会「学習者コーパスの歴史:学習者のL2 使用を総体としてとらえるために」(講師: 石川 慎一郎氏(神戸大学), 於: 関西大学, 2019年12月) 企画, 立案, 司会

上原 順一 (UEHARA Junichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論

〈共通教育担当科目〉ロシア語中級選択

〈学部教育担当科目〉ロシア語、ロシア学入門、ロシア語学演習、ロシア語学講義

[研究活動]

〈研究テーマ〉ロシア語の語彙論、語形成論、学習者向け教材など

〈所属学会〉日本ロシア文学会、日本ロシア文学会関西支部、大阪大学言語社会学会、日本ロシア語教育研究会

[研究業績]

〈論文〉

「ロシア語語彙の連想関係とロシア語教材」, 『外国語教育のフロンティア』, 大阪大学大学院言語文化研究科, 3号, pp.221-226, 2020年3月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

「ロシア文字へのお誘い」, マンスリー多文化サロン, 主催: 大阪大学外国語学部、みのお市民活動センター, 2019年6月20日, 於: 箕面市立みのお市民活動センター

[その他の活動]

〈管理運営〉部局情報セキュリティ委員会(外国語学部、言語文化研究科)、ODINS 部局担当(外国語学部)、コンテンツ管理委員会(言社・日日専攻)、ネットワーク管理委員会(言社・日日専攻)、情報化推進会議(外国語学部) など

〈社会貢献活動〉

咲耶会(大阪外国語大学 大阪大学外国語学部 同窓会) 幹事、大阪大学言語社会学会 理事

藤原 克美 (FUJIWARA Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会構造論 I

〈共通教育担当科目〉欧米の政治経済事情

〈学部教育担当科目〉専攻語実習(ロシア語13)、ロシア語 VII、ロシア政治・経済講義 I、ロシア政治・経済演習 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉ロシア経済論、ソビエト経済論

〈所属学会〉比較経済体制学会、日本比較経営学会、ロシア・東欧学会、経済理論学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・“Russian Consumers in the Globalised World: A Case Study of the Fashion and Apparel Industry”, *The Journal of Comparative Economic Studies*, Vol.24, 2019, pp.89-104.

〈書評・論評・紹介〉

- ・「書評：岡田和裕著『明治を食いつくした男 大倉喜八郎』」『セーヴェル』ハルビン・ウラジオストクを語る会、2020年3月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「ファッション産業に見るロシア消費社会」、第35回日露極東シンポジウム、2019年9月、ハバロフスク。
- ・「消費から見るロシアの体制移行」、京都大学経済研究所マクロ経済学・経済システム研究会、2019年8月、京都大学。
- ・«Повседневная жизнь женщин в Маньчжурии сквозь призму становления потребительского общества», Tenth East Asian Conference on Slavic-Eurasian Studies, June, 2019, Tokyo University.

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部評価委員（2019年4月～）、全学教育推進機構兼任教員（2019年10月～）、全学学生交流推進WG（2019年1月～）

〈学会活動〉ロシア・東欧学会理事（2018年10月～2021年10月）

〈社会貢献活動〉神戸研究学園都市公開講座講師、阪神シニアカレッジ講師、国際理解ゼミナール講師、関西ロシア語コンクール審査員

横井 幸子 (YOKOI Sachiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論、広域対照言語論特別研究

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ロシア語、ロシア語学演習、教科教育法（ロシア語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉ロシア語・第2言語教育、言語教育政策、教師教育

〈所属学会〉日本ロシア語教育研究会、日本ロシア文学会、アメリカ応用言語学学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・横井幸子 (2019). 「『社会に開かれた』ロシア語教育の確立：言語学習における主体性、対話性、そして多言語性」『ロシア語教育研究』第10号, 61-77.
- ・Horie Yokoi, S. (7/8/2019). Russian as a foreign language education in Japanese high schools: A multilingual education policy on the margin. In A. Mustajoki, E. Protassova, M. Yelenevskaya (Eds.), *The Soft Power of the Russian Language: Pluricentricity, Politics and Policies* (pp. 245-256). London: Routledge.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・横井幸子&ボリスワ・アンナ(2019年10月27日). 外国語としてのロシア語の授業における「協働対話」について

て。日本ロシア文学会第 69 回大会, 早稲田大学

- ・横井幸子(2019年8月7日).日本における内容重視型ロシア語教育の実践:学習者の主体性と言語学習における対話性. 母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 学会 2019 年度研究大会. 立命館大学.
 - ・Yokoi, S. (2019/6/1). Translanguaging space for Russian FL teachers in Japan and Japanese FL teachers in Russia. Eleventh International Conference on Language Teacher Education, Minneapolis, MN.
 - ・横井幸子 (2019年12月28日)「赤い国」、ソ連時代とロシア、そしてマルチリンガリズムについて. 愛媛県立松山東高等学校.
 - ・横井幸子 (2019年9月30日)“Moving forward and bloom”: 当事者意識を持って関わる. アイセック大阪大学委員会, Meal for Refugees. 大阪大学中之島センター.
 - ・横井幸子 (2019年7月29日) マルチリンガリズムとロシア語学習: 言語、教育、アイデンティティ. 愛媛県立松山東高等学校.
 - ・Aleixo, M., Chhuon, V., & Horii, S. (June 23-25, 2019). Teachers and Teaching: How to engage all learners. Invited workshop. University of Minnesota and Khmer Vulnerability Aide Organization. Royal University of Phnom Penh, Cambodia.
- 〈研究助成〉
- ・文部科学省 2019 年度「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」2018 年度.
 - ・文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 「日本のロシア語教育のための内容重視型授業のデザイン: 第 2 言語習得過程をふまえて」2017 年度～2020 年度.

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本ロシア語教育研究会代表 (2017年12月～), 日本ロシア文学会理事 (2019年10月～)

〔ハンガリー語〕

早稲田 みか (WASEDA Mika) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語構造論 IIab

〈学部教育担当科目〉 ハンガリー語 1, 11, IIab, ハンガリー語学演習 I, ハンガリー語学講義 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ハンガリー語学

〈所属学会〉 日本ウラル学会、国際ハンガリー学会、日本言語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ "Apologising, Refusing, and Thanking in Hungarian and Japanese: Different Languages and Different Strategies" *In Focus: Japan – The Legacy of the Heisei Era*. Antal József Knowledge Center (Tudásközpont). Budapest. 171-175. 2019.12.
- 〈書評・論評・紹介〉
- ・ 「『サタンタンゴ』: 小説から映画へ」映画『サタンタンゴ』パンフレット、ビターズ・エンド、東京、15-16. 2019年9月13日
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ "Két nyelv között – a mai magyar irodalom japánul" Magyarországi és japán kapcsolatok az elmúlt 30 év tükrében. Nemzetközi konferencia a magyar-japán kapcsolatok felvételének 150. évfordulója alkalmából. Central European University. Budapest. 2019. 9. 19
- ・ 「私の 20 世紀」 出町座、京都 2019 年 5 月 25 日
- ・ 「サタンタンゴ 小説から映画へ」 出町座、京都 2019 年 10 月 22 日
〈研究助成〉
- ・ 科学研究費「ハンガリー語動詞接頭辞の文法化とモダリティ的意味」
[その他の活動]
〈学会活動〉 日本ウラル学会理事
〈社会貢献活動〉 関西ハンガリー友好協会理事、愛知県ハンガリー友好協会理事

岡本 真理 (OKAMOTO Mari) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会動態論、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉 ハンガリー語 3, ハンガリー語 4, ハンガリー語 1 3, ハンガリー文化講義 I, ハンガリー語学演習 III, 特別外国語ハンガリー語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ハンガリー語社会論 (近代民族語運動および文学運動)

〈所属学会〉 日本ウラル学会, 大阪大学言語社会学会, ハンガリー学会, 国際ハンガリー学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ (単著) 翻訳 コストラニー・デジェー『エシュティ・コルネール』未知谷, 7-293 ページ, 2019 年 11 月。
- ・ (単著) 解説「狂騒曲の鳴りやまぬ世界—コストラニーとエシュティの時代」『エシュティ・コルネール』未知谷, 295-311 ページ, 2019 年 11 月。
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ (口頭発表) 「近代ハンガリー文学という文脈におけるコストラニーの「エシュティ」像」日本ウラル学会第 47 回大会, 麗澤大学, 2019 年 7 月 6 日。
- ・ (講演) 「ヨーロッパなのにヨーロッパじゃない?! ちょっと訳ありな国ハンガリーの自分探しの旅」マンスリー多文化サロン、箕面市民活動センター、2019 年 8 月 8 日。
- ・ (講演) 「大平原の小さな文化都市～世紀転換期のサバトカ～」ヨーロッパ文芸フェスティバル, 駐日欧州連合代表部, 2019 年 11 月 4 日。
- ・ (口頭発表) 「コストラニーとチャートの町サバトカ」日本ハンガリー学会第 8 回大会, 松山大学, 2019 年 12 月 7 日。

〈研究助成〉

科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号 19K00498 「国家変容と国民文学運動に関する事例研究: 近代ハンガリーの文学団体とカノン形成」 (令和元年～令和 4 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉

言語文化研究科：男女協働推進センター委員，教育改革推進会議委員

外国語学部：なんでも相談室室長，学生支援委員会委員，外国語学部障がい学生支援窓口教員

〈学会活動〉日本ウラル学会幹事，国際ハンガリー学会理事

〈社会貢献活動〉国際交流基金翻訳助成事業審査委員，フクシマグローバル財団奨学金審査委員

鈴木 広和 (SUZUKI Hirokazu) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論VIII A、ヨーロッパ言語社会動態論VIII B

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る F

〈学部教育担当科目〉ハンガリー語 12、ハンガリー語 Va、ハンガリー語 Vb、ハンガリー研究入門 Ia、ハンガリー文化講義 IIa、ハンガリー文化講義 IIb、ハンガリー特別講義 Ia、ハンガリー特別演習 IIIa、ハンガリー特別演習 IIIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉中世ハンガリー王国における歴史と歴史叙述、中世ハンガリー王国における文書発給

〈所属学会〉東欧史研究会、日本ウラル学会、ハンガリー学会、Nemzetközi magyarságtudományi társaság (国際ハンガリー学会)、日本西洋史学会、史学会

[研究業績]

〈教育実践報告〉Hungarológiai kutatás és oktatás Japánban 『外国語教育のフロンティア 3』2018年3月31日、133-137。

[その他の活動]

〈管理運営〉国際交流委員会委員、紀要編集委員会委員

〈学会活動〉日本ウラル学会理事

KOVÁCS RENÁTA, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

Special Seminar in Hungarian A, a seminar which helps students to get familiar with different research methods. It helps them as well to develop their skills in oral presentations.

<Foreign language classes>

All the classes listed in this section are Hungarian as a foreign language classes, hold at the School of Foreign Studies. The levels vary from beginner till intermediate.

Hungarian IIIa, Hungarian IVa, Hungarian14, Hungarian15, Hungarian4, Hungarian5

The below listed two subjects are optional for students. In these seminars students are working in pairs, using the language itself for further development of their skills. In Seminar in Hungarian Linguistics Ia students working in pairs based on a Hungarian

short story write a theater play, which is supposed to be presented on the annual theater festival in Minoh Campus.

In Hungarian IIa involves dubbing, subtitling and audio description activities of Hungarian movie fragments.

[Academic activities]

<Research Fields and interests> cognitive linguistics, cognitive metaphor, foreign language education, literature in foreign language education, applied linguistics

<Academic society memberships> Spanish Association of Applied Linguistics (AESLA), Association for Researching and Applying Metaphor (RaAM), The Japan Association for Language Teaching (JALT)

[Research achievements]

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

1st International Conference for Young Researchers in Cognitive Linguistics (YRCL) (Madrid), title of presentation: *Tumbles with metaphoric expressions of LIFE IS A JOURNEY: What interlanguage reveals about acquisition of L2 metaphoric expressions* (29-30th November, 2019)

[Other activities]

<Social activities>

- Organization of events (gastronomy session, movie afternoon, Christmas party) for students and staff of the Hungarian Department
- Organization of monthly Discussion Club for teachers, researchers and Osaka University staff (Onoharahigashi Apartments, Community room)

【ドイツ語】

山元 孝郎 (YAMAMOTO Atsuro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ドイツ語圏文化概論、ドイツ語圏文化講義

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉18世紀・19世紀のドイツ文学

〈所属学会〉日本独文学会

進藤 修一 (SHINDO Shuichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論 III A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究序説 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ドイツ語2、ドイツ語圏文化演習 V、ドイツ語圏現代社会演習 IIIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ近現代史 (中央ヨーロッパ・ドイツ系中等学校の比較研究、移民社会における学校)

〈所属学会〉日本西洋史学会、史学会、大阪大学言語社会学会、大阪大学ドイツ文学会

[研究業績]

〈論文〉

堀一成、坂尻彰宏、進藤修一、柿澤寿信、金泓謹、田中誠樹、竹林祥子、大泉幸寛、宮寄雄史郎「高大連携により取り組む高校生に対するアカデミック・ライティング教育の実践」、『大阪大学高等教育研究』8、2020年。

〈研究助成〉 科学研究費補助金（基盤研究（C））「中央ヨーロッパ・ドイツ系中等学校の比較研究—国家・地域を越えたシステムの検討」

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学副理事、大阪大学総長補佐、大阪大学教育オフィス筆頭オフィス員、大阪大学教育オフィス副オフィス長、大阪大学キャリアセンター副センター長、大阪大学高等教育・入試開発研究センター高大接続部門長、広報企画本部広報戦略策定委員会委員、大阪大学とカリフォルニア大学との学術交流推進室運営委員会委員、教育課程委員会副委員長、同委員会カリキュラム検討専門部会長

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会理事、同編集委員

〈社会貢献活動〉大阪大学 SEEDS プログラム運営委員、同運営指導委員長、ひょうごグローバルリーダー育成推進懇話会委員、JST ジュニアドクター育成塾（めばえ適塾）運営委員

中川 裕之 (NAKAGAWA Hiroyuki) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~nkg/naka.htm>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究A, ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究A B, ヨーロッパ言語構造論VIIA, ヨーロッパ言語構造論VII B, 広域対照言語論III A, 広域対照言語論III B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習

〈学部教育担当科目〉ドイツ語11 (A), ドイツ語11 (B), ドイツ語圏文化演習 I a, ドイツ語圏文化演習 I b, ドイツ語圏文化講義 I a, ドイツ語圏専門文献演習 I b, ドイツ語初級 a (B), ドイツ語初級 b (B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語コーパス言語学, 日独語対照研究, 語用論, 談話分析, 機能文法, スイス地域研究, 外国語教育

〈所属学会〉日本独文学会, ドイツ語教育部会, スイス文学会, スイス史研究会, 多言語社会研究会, 多言語化現象研究会

[研究業績]

〈編著書〉

・言語社会共同研究プロジェクト2019『ヨーロッパ超域研究1』, 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻, 2020年3月

〈翻訳〉

・イゾ・カマルティン「小言語のための弁明」, 言語社会共同研究プロジェクト2019『ヨーロッパ超域研究1』, pp. 49-57, 2020年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科言語社会専攻ヨーロッパ I 講座代表、外国語学部外国語学科ドイツ語専攻学科目代表、言語文化研究科言語社会専攻図書委員

黒谷 茂宏 (KOKUTANI Shigehiro) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 広域対照言語論 IV A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語中級

〈学部教育担当科目〉 ドイツ語圏専門文献演習 II a/b、ドイツ語圏文化演習 II a/b、ドイツ語 VI a/b、ドイツ語教科教育法 I/II/III/IV、ドイツ語 1(A)、ドイツ語 1(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 言語学、ドイツ語学、ドイツ語教育

〈所属学会〉 Internationale Vereinigung für Germanistik、Deutsche Gesellschaft für Kognitive Linguistik、日本フランス語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ Form und Semantik der Mittel-»Interpretation« in typologischer Perspektive. In: Studia Germanica Gedanensia 41, 94-112. 2019年11月。

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語学部入試委員会副委員長、安全衛生委員

北岡 志織 (KITAOKA Shiori) 助教

[教育活動]

〈学部教育担当科目〉 ドイツ語圏文化演習IV、ドイツ語圏文化概論 A、ドイツ語VII、ドイツ語初級 C、ドイツ語中級・LL

[研究活動]

〈研究テーマ〉 現代ドイツ演劇・文学における「他者」表象

〈所属学会〉 阪神ドイツ文学会、日本独文学会、日本ドイツ学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 北岡志織「スペクタクルとしての難民演劇」、現代ドイツ・ハンブルク公共劇場による難民問題関与に関する一考察」、『難民研究ジャーナル』, 9, 難民研究フォーラム, pp. 102-116, 2020年3月。
- ・ 北岡志織「ドイツ大劇場と難民問題-「非大劇場的」人物・表現形式の登場とその意味-」、『ヨーロッパ超域研究』, 1, 言語社会共同研究プロジェクト 2019, pp. 83-97, 2020年3月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Shiori KITAOKA Wer spricht zu wem? Analyse des Texts und der Inszenierung von Jelineks Die Schutzbefohlenen,

Asiatische Germanistentagung, Hokkai Gakuen University, 2019 年 8 月.

〈研究助成〉

- ・科学研究費, 特別研究員奨励費「現代ドイツ演劇における「他者」表象の研究—難民演劇をめぐる諸問題—」, 2019 年度 (研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員

Guido Rappe, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Course on language, Course on scientific writing

<General Education classes> Course on topics of German Society

<Foreign language classes> 2 classes for beginners, 2 for 2nd year students

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Language, origin of language; Modern Phenomenology

<Academic society memberships> (German) JSPS-Club

[Research achievements]

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

August 2020, Oral Presentation: Conference World Association for Chinese Studies / Witten (Germany)

【ヨーロッパⅡ講座】

〔スウェーデン語〕

高橋 美恵子 (TAKAHASHI Mieko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ言語構造論

〈学部教育担当科目〉 スウェーデン語実習、スウェーデン現代社会特別演習、北欧現代社会概説、北欧文化講義

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ワーク・ファミリー・バランスの日本・EU 比較研究、比較の視点からみたスウェーデンの家族・ライフスタイルの多様性とジェンダー

〈所属学会〉 日本社会学会、日本家族社会学会、関西社会学会、International Sociological Association、社会政策学会、日本人口学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・高橋美恵子 「子どもの最善の利益を考慮した子育て環境—スウェーデンの取り組み—」 第 6 回 SSI サロン, 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ, 2019 年 5 月 23 日.
- ・Mieko Takahashi “New horizons in the study of work life balance: Japan and Sweden in comparison”, International Workshop

on Changing Family Life and Nonstandard Work Schedulers, Campus Innovation Center, 2019年6月22日.

・ Mieko Takahashi “Svenskundervisningen vid Osaka University”, Svensklärarkonferens i Osaka, Osaka University, 2019年11月15日.

・ 高橋美恵子「変容する家族と子育て：スウェーデンの実践」第27回 まちかねCAFÉ, 大阪大学理学研究科J棟, 2020年1月24日.

〈研究助成〉

・ 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 一般「多様性社会のワーク・ファミリー・バランス—スウェーデン・オランダ・ドイツの実践」2016年度～2020年度 (研究代表者)

・ 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 一般「非典型時間帯就労に着目したワーク・ライフ・バランスの国際比較研究」2017年度～2019年度 (研究分担者)

〈調査活動〉

・ 多様性社会のワーク・ファミリー・バランス研究：ドイツ (ベルリン) インタビュー調査実施 2019年8月29日～9月8日、スウェーデン (ストックホルム) 研究打ち合わせ・情報収集 2019年9月9日～17日.

[その他の活動]

〈管理運営〉 計画評価オフィス副オフィス長、研究・広報・社会貢献委員会委員

〈学会活動〉 日本家族社会学会編集委員

〈社会貢献活動〉

・ 関西日本スウェーデン協会 Swedish Crayfish Party 講師「スウェーデンの家族生活・ライフスタイル」神戸北野美術館, 2019年9月21日.

・ 芦屋市明るい選挙推進協議会 第39回明るい選挙推進大会講師「スウェーデンにみる社会参画と協働—心豊かな生活の実現を目指して—」芦屋市市民センター, 2020年2月22日.

・ NHK E テレ「すくすく子育て：子どもの虐待を考える②～たたく子育てどうすればやめられる？」解説 2020年2月22日放送.

古谷 大輔 (FURUYA Daisuke) 准教授

(個人) <http://gustav.air-nifty.com> (科研) <http://conglomerate.labos.ac>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ言語構造論、ヨーロッパ言語社会動態論

〈共通教育担当科目〉 欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 北欧史概説、スウェーデン史特別演習、デンマーク史特別演習、北欧文化演習、スウェーデン語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 北欧近世史、歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築、歴史的ヨーロッパにおける複合政体の比較研究

〈所属学会〉 日本西洋史学会、バルト・スカンディナヴィア研究会、大阪大学言語社会学会、スウェーデン歴史

協会 (Svenska Historiska Föreningen)

[研究業績]

〈著書〉

- ・村井誠人、大島美穂、佐藤睦朗、吉武信彦編、『映画のなかの「北欧」—その虚像と実像—』、小島遊書房、2019年11月、総296頁、執筆箇所、「第15章みじかくも美しく燃え」、72-75頁、「第57章ミレニアム ドラゴン・タトゥーの女」248-251頁
- ・金澤周作監修、藤井崇、青谷秀紀、古谷大輔、坂本優一郎、小野沢透編、『論点・西洋史学』、ミネルヴァ書房、2020年3月、総340頁、執筆箇所、「III 西洋近世史の論点」、125頁、「主権/主権国家/主権国家体制」、148-149頁、「複合国家/複合君主政 礫岩国家」、158-159頁、「軍事革命」、166-167頁

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・古谷大輔「混合政体の更新と「ジャコバンの王国」—スウェーデン王国における「革命」の経験—」、第69回日本西洋史学会大会小シンポジウム「「革命」「自由」「共和政」を読み替える—向う岸のジャコバン—」、学会報告、2019年5月19日、静岡大学
- ・古谷大輔「合同部会「主権国家」再考 (Part2) 翻訳される主権」、司会、2019年度歴史学研究会大会、2019年5月26日、立教大学
- ・Daisuke FURUYA, “History-Education at Universities of Sweden and “Freedom of Choice”, International Symposium by JSPS Global Initiatives, “Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality”, 学会報告、2019年8月5日、大阪大学中之島センター

〈研究助成〉

- ・基盤研究 (A) 「歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築」、平成29～32年度科学研究費補助金、研究代表者
- ・基盤研究 (B) 「ジャコバン主義の再検討：「王のいる共和政」の国際比較研究」、平成28～31年度科学研究費補助金、研究分担者
- ・課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較」、平成28～31年度日本学術振興会、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学適塾記念センターオランダ学研究部門兼任教員、大阪大学先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門部門員、大阪大学21世紀懐徳堂兼任教員、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻研究企画推進委員会委員

〈学会活動〉 Svenska Historiska Foereningen Internationella redaktionen (スウェーデン歴史協会国際編集委員)、バルト・スカンディナヴィア研究会関西支部事務局、大阪大学言語社会学会理事、日本西洋史学会『西洋史学』編集幹事

〈社会貢献活動〉

- ・古谷大輔、「現代のヨーロッパをどのように学ぶか：現代の北欧」、神奈川県高等学校教科研究会歴史分科会 高大連携講座、2019年8月9日、神奈川県鎌倉学園高等学校

當野 能之 (TOHNO Takayuki) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論 V A、ヨーロッパ言語構造論 V B

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習 (スウェーデン語) I、特別外国語演習 (スウェーデン語) II

〈学部教育担当科目〉スウェーデン語 2、スウェーデン語 3、スウェーデン語 12、スウェーデン語 I b、スウェーデン語学特別演習 a、スウェーデン語学特別演習 b、教科教育法 (スウェーデン語) a、教科教育法 (スウェーデン語) b

[研究活動]

〈研究テーマ〉スウェーデン語文法、不変化詞動詞構文、スウェーデン語教育

〈所属学会〉日本語学会、関西言語学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 當野能之, 梅谷綾, 南澤佑樹, 芝田思郎 (2020) 「現代スウェーデン語基本不変化詞動詞リスト作成に向けて」, 『外国語教育のフロンティア』第 3 号, 291-300, 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻
- ・ 當野能之 (2019) 「合唱団のためのスウェーデン語発音入門」, 『ハーモニー』第 188 号, 82-84, 全日本合唱連盟

〈書評・論評・紹介〉

- ・ Tohno, Takayuki (2019) "Sweden Hills" in Lars Bergman (ed.) *Var i all världen*, 16-17, Göteborg : Sverigekontakt

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金 基盤 (C) 「現代スウェーデン語基本不変化詞動詞リスト作成に関する基礎的研究」平成 30 年～平成 32 年 (研究代表者)
- ・ 科学研究費補助金 基盤 (C) 「微視的類型論によるパラレル・コーパスを利用したバルト海周辺諸語の不定人称文の研究」 (研究代表者: 名古屋大学 佐久間 淳一) 平成 29 年～平成 31 年 (研究分担者)
- ・ 日本語学会「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト」, プロジェクト名「フィンランドのスウェーデン語—合唱団のためのスウェーデン語発音講座」2019 年度 (研究代表者)

[その他の活動]

〈管理運営〉教務委員会委員

〈学会活動〉関西言語学会編集委員 (2016 年 4 月～), ICLC (国際認知言語学会) 準備委員 (宿泊交通担当) (2018 年 1 月～2019 年 9 月)

〈社会貢献活動〉

- ・ 2019 年 11 月「東アジアスウェーデン語教師会議 (Svensklärarkonferens i Osaka)」, 運営, 大阪大学・千里朝日阪急ビル・千里阪急ホテル, 2019 年 11 月 14 日—16 日
- ・ 2019 年 9 月「社会と表現の相互作用—フィンランド近現代史と陶芸—」, 司会、企画, 京阪電車 なにわ橋駅アートエリア B1, 2019 年 9 月 16 日
- ・ 2019 年 6 月「シベリウスとフィンランドの言語の多様性—合唱団のためのスウェーデン語発音講座— (東京開催)」, 企画、司会、発音講座, 国士舘大学, 2019 年 6 月 29 日

- ・2019年6月「シベリウスとフィンランドの言語の多様性—合唱団のためのスウェーデン語発音講座—（大阪開催）」、企画、司会、発音講座、大阪大学、2019年6月9日

〔デンマーク語〕

田邊 欧 (TANABE Uta) 教授

<https://www.utatanabe.com>

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論Ⅱ、ヨーロッパ言語構造論Ⅳ、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論
特別研究、世界文学・文化論

〈共通教育担当科目〉学問の扉（北欧文学入門）

〈学部教育担当科目〉デンマーク語Ⅰ、デンマーク語Ⅱ、デンマーク語Ⅱa（B）、北欧文学概論、北欧文学特別
演習Ⅰ、北欧文学特別演習Ⅱ、現代超域文化論

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉近・現代北欧文学（ブリクセン研究、アンデルセン研究、現代北欧モダニズム文学）

〈所属学会〉日本比較文学学会、北ヨーロッパ学会、国際アンデルセン学会、エーディット・スーデルグラン学会、
大阪大学言語社会学会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・田辺欧「二十一世紀に北欧文学を読む—神話から紡ぎだされた詩と物語」、『學士會会報』、pp.42-46、
(2019.5)

〈小論〉

- ・田辺欧「デンマーク黄金期文学の遠景にあるもの」、『ハマスホイとデンマーク絵画』、pp.54-55、
(2020.1)

〈論評・監修など〉

- ・田辺欧「愛と哀しみの果て」、『映画のなかの「北欧」』、第14章、pp.68-71、(2019.11)
- ・田辺欧（監修）「今も愛される「童話の王様」アンデルセン」、『マンガ 世界と日本の人物伝100』、第4
巻、富士山みえる著、pp.18-29、(2020.3)

〔その他の活動〕

〈管理運営〉ヨーロッパⅡ講座代表、デンマーク語部会主任、デンマーク語学科目代表、外国語学部評価委員会
委員長、全学・評価委員会委員、全学・公開講座運営委員会委員

〈学会活動〉北ヨーロッパ学会・理事、日本比較文学学会・関西支部幹事

〈学内講演・講義活動〉

- ・音楽のアラバスク・文学のアラバスク、大阪大学21世紀懐徳堂×豊中市共催レクチャーコンサート(2019.12)

〈社会貢献活動〉

- ・大阪大学共創機構・社会学共創本部「異文化理解クラスター」構成員
- ・神戸女学院評議委員

石黒 暢 (ISHIGURO Nobu) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会構造論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る（北政事情概説）

〈学部教育担当科目〉デンマーク語 13, デンマーク語Ⅱ, デンマーク現代社会特別演習, デンマーク文化講義, 北政現代社会概説b

[研究活動]

〈研究テーマ〉比較福祉国家論, 日本と北欧の高齢者介護論, 子ども家庭福祉論

〈所属学会〉日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 社会政策学会, 北ヨーロッパ学会, 関西社会福祉学会, 近畿地域福祉学会, 日本介護福祉学会, 同志社大学社会福祉学会, International Sociological Association

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『映画のなかの「北政」』, 村井誠人, 大島美徳, 佐藤睦朗, 吉武信彦ほか, 小鳥遊書房, I S B N, 78-4-909812-21-6, 2019年11月, 執筆箇所「第47章 幸せになるためのイタリア語講座」 pp.206-209.

・『新世界の社会福祉 3 北政』, 齊藤弥生, 石黒暢 (共編著), 旬報社, I S B N, 4845115972, 2019年08月, 執筆箇所「第1部第2章 北政の高齢者介護のいまー普遍主義の弱体化?」 (翻訳) pp.48-76, 「第2部 デンマーク 第2章 高齢者介護ー変容するケアのパスpekティブ」 (単著) pp.221-246.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Varieties of Domestic Care Regimes: Restructured Inequalities through Public Policy, 討論者, 第139回社会政策学会 国際交流分科会, 2019年10月20日, 於 法政大学.

〈報告書〉

・『2016～2020年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 「福祉ガバナンスと介護労働の変容に関する国際比較研究」 中間報告書』, 2020年3月.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.28-32 「福祉ガバナンスと介護労働の変容に関する国際比較研究 (研究代表者: 石黒暢)」 (研究代表者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.30-33 「持続可能な介護保障と制度「外」介護の展開に関する国際比較調査 (研究代表者: 齊藤弥生)」 (研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語社会専攻・外国語学部国際交流委員副委員長, 言語文化研究科・紀要編集委員会委員長, 全学国際交流委員, 全学施設マネジメント委員

〈学会活動〉北ヨーロッパ学会副会長, 社会政策学会国際交流委員, 関西社会福祉学会学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉大阪府福祉のまちづくり審議会委員, 大阪府都市計画審議会委員, 大阪府国土利用計画審議会委員, 大阪府住宅まちづくり審議会委員, 豊中市人権文化のまちづくりをすすめる協議会委員

大辺 理恵 (OBE Rie) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論 IIIa・IIIb

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習 (デンマーク語) I

〈学部教育担当科目〉デンマーク語 2・3、デンマーク語 11、デンマーク語 Ia・Ib、デンマーク語学特別演習 a・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉デンマーク語学、デンマーク語教育、言語学

〈所属学会〉日本語学会、日本語用論学会、デンマーク北欧文献学学会、デンマーク言語学会、東ノルド諸語文献学学会

[研究業績]

〈論文〉

・ Obe, Rie & Hartmut Haberland. 2019. "Japanske interaktive partikler i dansk oversættelse" *NyS* 57. 113-138.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ On the Semantic System of a Modal Verb, *skull/skulle*, in Early Modern Danish (2019年7月5日「24th International Conference on Historical Linguistics (第24回国際歴史言語学会)」にて)

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院入試委員会委員、なんでも相談室委員

〈学会活動〉

〈社会貢献活動〉大阪大学・公開講座 複言語学習のすすめ (2019年9月23日・10月20日・11月17日)

Martin Paludan-Müller, Specially Appointed Associate Professor

<https://osaka-u.academia.edu/MartinPaludanM%C3%BCller>

[Teaching activities]

<Foreign language classes> 1. to 4. grade

[Research achievements]

https://www.academia.edu/42124130/Sprog_er_ikke_matematik

<Papers>

https://www.academia.edu/42124130/Sprog_er_ikke_matematik

【ヨーロッパ・アメリカ I 講座】

【英語】

岡田 新 (OKADA Shin) 教授

<http://www.eonet.ne.jp/~shinokadahome>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 イギリス言語社会動態論 現代英米政治外交史特殊研究

〈共通教育担当科目〉 リスニング

〈学部教育担当科目〉 イギリス文化概論 イギリス文化特別演習 イギリス文化演習 英語1 (講読)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イギリス現代政治史 自由党の再生と衰退

〈所属学会〉 日本政治学会 大阪大学言語社会学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科 副研究科長 (言語社会専攻 専攻長)

〈学会活動〉 大阪大学言語社会学会 代表理事

〈社会貢献活動〉

- ・ 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 事務局
- ・ JICA (日本国際協力機構) 招聘研修 講師

貴志 雅之 (KISHI Masayuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 B、アメリカ言語文化表象論 IIa、アメリカ言語文化表象論 IIb

〈学部教育担当科目〉 アメリカ文学・文化特別演習 IIa、アメリカ文学・文化特別演習 IIb、アメリカ文学・文化演習 IIa(A)、アメリカ文学・文化演習 IIb(A)、アメリカ文学・文化演習 IIa(B)、アメリカ文学・文化演習 IIb(B)、アメリカ文学・文化講義 a、アメリカ文学・文化講義 b、英語1 3、総合英語I (上級)、総合英語II (上級)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アメリカ演劇の政治文化研究—ポストヒューマン・エコロジー、20-21世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900年からポスト9.11、ヘンリー・ジェイムズの劇作研究—小説と演劇のインターフェイス、アメリカン・ミュージカル研究、アメリカ演劇における帝国主義・他者・ポストコロニアリズム

〈所属学会〉 日本アメリカ文学学会、日本英文学会、日本アメリカ演劇学会、日本ウィリアム・フォークナー協会、日本マーク・トウェイン協会、The Eugene O'Neill Society (米国)、The American Theatre and Drama Society (米国)、Association for Theatre in Higher Education (米国)

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「ヘンリー・ジェイムズ、劇作の到達点とその真価——『客間』と『抗議』をめぐる」『アメリカ演劇』(日本アメリカ演劇学会) 30号 (ジャンルを超えるアメリカ演劇I), 2019年5月, pp. 28-46.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ シンポジウム: 「ミュージカル研究」(個人発表タイトル: 「心の病、その脱スティグマ化に向けて——21世紀アメリカン・ミュージカルの一つの方向性」令和元年(2019)年8月25日, 日本アメリカ演劇学会第9回大会, 於: クロスウェーブ梅田.

[その他の活動]

[管理運営] 外国語学部入試委員会委員、

[学会活動] 日本アメリカ演劇学会会長、日本英文学会編集委員会顧問、日本アメリカ文学会編集委員、日本アメリカ文学会関西支部評議員

渡邊 克昭 (WATANABE Katsuaki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A, B、アメリカ言語文化表象論 IA, IB

〈共通教育担当科目〉 英語(Reading)

〈学部教育担当科目〉 アメリカ文学・文化特別演習 Ia, Ib、アメリカ文学・文化演習 Ia(A), Ib(A)、アメリカ文学・文化演習 Ia(B), Ib(B)、アメリカ文学・文化概論 a, b、英語 13(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉

- ・ 21 世紀英語文学におけるポストヒューマニズムの思想史的展開—物質としての生命
- ・ ドン・デリーロ、リチャード・パワーズ、ソール・ベロー、マーガレット・アトウッド、ハーマン・メルヴィル研究
- ・ ポストモダン・アメリカ文学・文化研究、文学・文化批評理論、アメリカ映像文化表象論
- ・ アメリカ文学におけるホテル的空間の文化史

〈所属学会〉 日本アメリカ文学会、日本英文学会、アメリカ学会、日本ソール・ベロー協会、日本ヘミングウェイ協会、日本ウィリアム・フォークナー協会、アメリカ演劇学会、大阪大学言語社会学会、日本英文学会関西支部、日本マーク・トウェイン協会、阪大英文学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「蘇るポストヒューマン・バートルビー—ドン・デリーロの『ボディ・アーティスト』を導きの糸として」、『英米研究』第 44 号 (大阪大学英米学会、2020 年 3 月 31 日発行、pp. 31-59.)

〈書評〉

- ・ 巽孝之著『パラノイドの帝国—アメリカ文学精神史講義』(大修館書店、2018 年) 「アメリカ学会会報」第 201 号 (アメリカ学会、2019 年 11 月 30 日発行、p. 6)
- ・ 森有礼、小原文衛編著『路と異界の英語圏文学』(大阪教育図書、2018 年)、短評、『アメリカ文学研究』第 56 号 (日本アメリカ文学会、2020 年 3 月 31 日発行、pp. 100-101.)

〈口頭発表〉

- ・ 学会シンポジウム講師「蘇るポストヒューマン・バートルビー—ドン・デリーロの『ボディ・アーティスト』を導きの糸として」、日本アメリカ文学会第 63 回関西支部大会フォーラム「メルヴィルとホイットマンの時代—生誕 200 年を記念して」(2019 年 12 月 14 日、龍谷大学)

〈研究助成〉

科研費[基盤研究 (C)]による研究

・「21世紀英語文学におけるポストヒューマニズムの思想史的展開—物質としての生命」研究代表者、(2018年4月～)

・「アメリカ文学におけるホテル的空間の文化史」研究分担者、(2019年4月～)

[その他の活動]

〈学会活動〉

・日本アメリカ文学学会代議員、編集委員

・日本アメリカ文学学会関西支部評議員

・日本英文学会関西支部評議員

・日本ソール・ベロー協会理事

・大阪大学言語社会学会理事・編集委員

・アメリカ学会中原伸之賞候補作品査読担当

〈管理運営〉

・英語専攻学科目代表

・ヨーロッパ・アメリカ I 講座代表

・外国語学部総務委員

・超域イノベーション博士課程プログラム担当

・大阪外国語大学 100 年史編集委員

・大阪大学外国語学部英語部会同窓会 (EDU) 常任幹事

大津 智彦 (OTSU Norihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、イギリス言語文化資源論

〈学部教育担当科目〉英語学特別演習、英語学演習、英語学 I、英語史概論、英語 1、英語 3

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史、特に統語法の史的変化に関する記述的研究

〈所属学会〉英語コーパス学会

[研究業績]

〈共著〉

・『コーパスと英語史』 西村秀夫、塚本聡、谷明信、家入葉子、大津智彦、水野和穂、内田充美、ひつじ書房、2019年04月

〈論文〉

・大津智彦 (2020) 「後期近代英語期における「promise+目的語 +to 不定詞」と「promise+目的語 +that 節」の交替について」『英米研究』第44号 (大阪大学 英米学会, 2020年3月) 学術論文

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院 (言語社会専攻) 教務委員長・外国語学部教務委員

杉田 米行 (SUGITA Yoneyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉

- ・アメリカ言語社会構造論 I A・B
- ・ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉

- ・総合英語 (Liberal Arts & Sciences)

〈学部教育担当科目〉

- ・アメリカ史概論 ab
- ・アメリカ歴史・政経演習 Iab
- ・アメリカ歴史・政経演習 IIab(A)
- ・アメリカ歴史・政経特別演習 ab
- ・アメリカ歴史・政経演習 IIab (B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉

- ・ビッグデータ、人工知能が社会（主に医療分野）に与える影響
- ・日米医療保険史・医療政策史
- ・日米外交・安全保障研究

〈所属学会〉

- ・日本国際政治学会
- ・アメリカ学会
- ・政治社会学会
- ・Society for Historians of American Foreign Relations

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・（共著）Yoneyuki Sugita, Chapter 2 “Egalitarianism in Japanese Medical Insurance Programs in War and Peace, 1937-1946,” in Michael W. Myers and Puck Brecher eds., *Defamiliarizing Japan's Asia-Pacific War* (University of Hawaii Press, October 2019), pp. 34-54. (244P)
- ・（単著）杉田米行『Speed Reading テキスト 第2巻 Kindle 版』151p (Kindle 版, 2019)
- ・（単著）杉田米行『Speed Reading テキスト Kindle 版』(Murata Publisher, July 2019) 129 頁。

〈翻訳・翻訳書〉

- ・Yutaka Kanda, *Japan's Cold War Policy and China: Two Perceptions of Order, 1960-1972* (Routledge, December 2019) 306P (神田豊隆『冷戦構造の変容と日本の対中外交——二つの秩序観 1960-1972』(岩波書店、2012 年 2 月)の英訳

〈書評・論評・紹介〉

- ・（書評）杉田米行「国家的な神話を批判する 占領者の感情や行動の複雑な多面性を強調」スーザン・L・カラザース著『良い占領？第二次大戦後の日独で米兵は何をしたか』（小滝陽翻訳、人文書院、2019）の書評『週刊読書人』第3318号（2019年12月6日）<https://dokushojin.com/article.html?i=6293>
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ Yoneyuki Sugita, “The Japan Paradox: Artificial Intelligence in Japan,” Asia-Pacific Studies Conference, Osaka University, 9 June 2019
〈研究助成〉
- ・ **科学研究費基盤研究(C)一般**「国際関係の構造的変動と日本の立ち位置の変遷が医療保険制度の展開に与えた影響」研究代表(2019年度～2023年度)
- ・ 国際共同研究促進プログラム(タイプ B)採択「医療保険制度が診療に与える影響(腫瘍学を中心として):日本とインドの比較研究」(2018年度～2025年度)
- ・ 国際共同研究促進プログラム(タイプ B)採択「アジア太平洋地域の平和と安定:包括的アプローチを目指して」(2017年度～2024年度)
- [その他の活動]
〈管理運営〉
- ・ マルチリンガル教育センター出講
〈学会活動〉
- ・ 政治社会学会理事
- ・ International Advisory Board member of *Faravid* (the yearbook of the Historical Association of Northern Finland)
- ・ H-US-Japan Editor
- ・ H-Diplo Advisory Board member
〈社会貢献活動〉
- ・ 兵庫県教育委員会非常勤嘱託員「子ども多文化共生サポーター」試験面接委員（2020年2月20日）
- ・ 大阪国際大和田高等学校大阪大学研修会受入れ教員(2019年12月)

畑田 美緒 (HATADA Mio) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 イギリス言語文化表象論、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究

〈学部教育担当科目〉 イギリス文学・文化概論、イギリス文学・文化演習、イギリス文学・文化講義、イギリス文学・文化特別演習、

[研究活動]

〈研究テーマ〉 英文学、19世紀のイギリス小説

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、ディケンズフェロシップ日本支部

中村 未樹 (NAKAMURA Miki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、広域言語文化論

〈学部教育担当科目〉 英語 1、英語 1 1、イギリス文化講義、イギリス文化演習、イギリス文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イギリス演劇

〈所属学会〉 日本シェイクスピア協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、名古屋大学英文学会、関西シェイクスピア研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「閉ざされた耳/港—『ペリクリーズ』における海賊問題」、『英米研究』44、73-88、2020年3月
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ 書評発表、James Kuzner、“Shakespeare as a Way of Life: Skeptical Practice and the Politics of Weakness”、関西シェイクスピア研究会、2019年4月
 - ・ 「『ペリクリーズ』における法と境界」、第58回シェイクスピア学会（セミナー「シェイクスピアと法」）、2019年10月

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本シェイクスピア協会委員、名古屋大学英文学会編集委員

〈管理運営〉 国際交流委員会委員、文系海外研修委員

Michael Frederick Hofmeyr, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Multi-disciplinary Practical Language Studies II-a (Big Ideas: Human Progress [Advanced Level])

<General Education classes> English X-a (Big Ideas: Human Progress [Standard Level]), English X-b (Overview of Western Philosophical Thought), English XI-a (Introduction to Linguistics 1), English XI-b (Introduction to Linguistics 2), English XII-a (Introduction to Linguistics 3), English XII-b (Introduction to Linguistics 4)

<Foreign language classes> English 4 (Discussion and Debate 1), English 14 (Discussion and Debate 2)

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Computer-Assisted Language Learning, Critical Thinking, Linguistics (Theoretical and Applied), Second Language Acquisition

<Academic society memberships> JALT (Japan Association for Language Teaching), LET (Japan Association for Language Education and Technology)

[Research achievements]

<Papers>

- ・ Hofmeyr, M. (2020). Learner evaluations of English speaking class activities: Striking a balance between enjoyment and challenge. *Frontier of Foreign Language Education*, 3, 207-218.

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- ・ Hofmeyr, M. (2019, November). Developing learner agency through class debate, *JALT2019*, Nagoya, Japan.

- Hofmeyr, M. (2019, November). Scaffolding and skill-building ideas for training great debaters, *Critical Thinking SIG Forum* (at JALT2019), Nagoya, Japan.
- Hofmeyr, M. (2019, July). The Japanese education system: A brief overview. Guest lecture conducted at Nara Women's University, Japan, as part of the Mahoroba Summer Programme for international students.

<Research aids (Competitive Research Funds)>

'Investigating the potential of asymmetrical computer game tasks to facilitate SLA and enhance learner motivation' (Grant-in-aid for Scientific Research ('Kakenhi'), Early-Career Scientists Category), 3 years, ¥1,950,000.

[Other activities]

<Other departmental activities> Acted as a judge for the School of Foreign Studies English Speech Contest

<Other presentations>

- Hofmeyr, M. (2020, February). Careers in education: Working as a teacher. Panelist and career consultant at the *After JET Conference*, Tokyo, Japan.

Ashlyn Moehle, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> History of Linguistics

<Foreign language classes> English for Communication, Introduction to Semantics and Pragmatics, Introduction to Phonetics and Phonology, The Audio Renaissance, Translation: Theory and Practice, Introduction to Historical Linguistics

[Academic activities]

<Research Fields and interests> English Japanese contrastive linguistics, Psycholinguistics, Translation, Internationalization of higher education

[Research achievements]

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- Performance of "Looking Backwards Through the Telescope" on *Harmontown* podcast Episode 359, filmed at the Dynasty Typewriter in Los Angeles, California

[Other activities]

<Social activities> Tea ceremony, Kimono reform

【ヨーロッパ・アメリカⅡ講座】

【フランス語】

川北 (安生) 恭子 (KAWAKITA-ANJO Yasuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論Ⅷ、ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉フランス語 3、フランス語 1 5、フランス語学演習、フランス語教科教育法、フランス文

化演習Ⅳ、兼修語学初級フランス語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス語連結詞、フランス語教育、

〈所属学会〉 日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、大阪市立大学フランス文学会、大阪大学フランス文学会、言語社会学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 知的基盤総合センター兼任教員、入試委員会委員、フランス語部会主任、学科目代表

〈学会活動〉 日本フランス語フランス文学会語学教育委員会委員

高階 早苗 (TAKASHINA Sanae) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語文化表象論、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究

〈共通教育担当科目〉 フランス語

〈学部教育担当科目〉 フランス語、フランス研究入門、フランス文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 19世紀フランス文学における私的空間と公的空間

〈所属学会〉 日本フランス語フランス文学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会委員

岡田 友和 (OKADA Tomokazu) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会動態論Ⅳ、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究

〈学部教育担当科目〉 フランス語2、フランス語14、フランス研究入門、フランス文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フランス近現代史、フランス植民地帝国史

〈所属学会〉 日仏歴史学会、日本西洋史学会、史学会、政治経済学・経済史学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会委員、協定校コンタクト・パーソン (リール政治学院)

POLET Jean-Noël, Specially Appointed Associate Professor

jeannoel@lang.osaka-u.ac.jp

[Teaching activities]

Courses on written French (A2 and B1/B2 levels), Course on communication in French (B2 level), Course on French society (B1/B2 level), Course on French communication for beginners (A1/A2 level), Course on French

communication for the non-specialist (A1/A2/B1 level), Simulation of French DELF-DALF B1/B2 exams.

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

French social history,

History of the port of Marseilles

[Research achievements]

<Papers>

- Introduction au passé composé : la journée d'Isabelle, Osaka University

- L'évolution du DELF-DALF dans la région d'Osaka, Osaka University

[Other activities]

<Academic society activities>

Examiner Delf-Dalf

〔イタリア語〕

菊池 正和 (KIKUCHI Masakazu) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論、現代超域文化論（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉イタリア語 2、イタリア語 12、イタリア文学講義、イタリア社会演習、イタリア文化特別演習 I、世界文学・文化論（リレー講義）

[研究活動]

〈研究テーマ〉近現代イタリア文学、イタリア演劇

〈所属学会〉イタリア学会、関西イタリア学研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「ドイツにおけるピランデッロの受容ーラインハルトによる『作者を探す六人の登場人物』の演出を中心に」、『言語社会共同研究プロジェクト 2019 ヨーロッパ超域研究 1』（大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻）、2020年3月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・シンポジウム「火山の記憶ーナポリと鹿児島ー」コメンテーター、第67回イタリア学会大会、於：鹿児島大学（郡元キャンパス）、2019年10月26日
- ・「イタリア文学この1冊 アンтониオ・タブッキ『逆さまゲーム』」、関西イタリア学研究会、2019年12月29日、於：公益財団法人日本イタリア会館

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）「未来派演劇における劇作法と舞台空間の研究」（課題番号：17K02617）平成29年～31年（研究代表者）

[その他の活動]

〈管理運営〉ヨーロッパ・アメリカⅡ講座代表、総務委員会委員長、なんでも相談室室員、イタリア語学科目代表、協定校コンタクトパーソン（ペルージャ外国人大学）

〈学会活動〉イタリア学会幹事・編集委員、関西イタリア学研究会運営委員

〈社会貢献活動〉公益財団法人日本イタリア会館理事、京都市立高倉小学校学校運営協議会委員

ベルテッリ ジュリオ アントニオ (BERTELLI Giulio Antonio) 准教授

<http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/view?u=44>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉イタリア語・イタリア文化

〈共通教育担当科目〉イタリア語・イタリア文化

〈学部教育担当科目〉イタリア語（文法、LLなど）、イタリア文化（イタリア史）関連

[研究活動]

〈研究テーマ〉幕末・明治初期における日伊交流史（外交・貿易史）

同時期のイタリア人による未公開の日本関係史料

〈所属学会〉European Association for Japanese Studies (EAJS) - ヨーロッパ日本研究協会

イタリア学会

伊日研究学会 Associazione Italiana Studi Giapponesi (AISTUGIA)

明治維新史学会

イタリア近現代史研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・ 専門著書（共著）Zhang Gaoheng, Mario Mignone (ed.), Bertelli Giulio Antonio et al. *Exchanges and parallels between Italy and East Asia*, Cambridge Scholars Publishing, ISBN: 978-1-5275-4249-5. 2020年1月

・ 辞書（イタリア語校閲）杉本裕之・谷口真生子監修、三省堂編修所編、『ベーシッククラウン 伊和・和伊辞典』、三省堂、ISBN:978-438-511-9694、2020年3月

〈論文〉

・ ベルテッリ ジュリオ アントニオ「1868年戊辰戦争時に新潟港を訪れたイタリア人たちの謎 ―武器商人エドワード・スネルとイタリア人蚕種商人らとの接触を中心に―」、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻『ヨーロッパ超域研究1』、ISSN:2435-3787、2020年3月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Bertelli Giulio Antonio, *Le relazioni diplomatiche e commerciali tra Italia e Giappone a cavallo della Restaurazione Meiji*, MANABU XIII incontro - Giappone in prospettiva: i ricercatori italiani e la Scuola di Studi sull'Asia Orientale, 2019年4月
<https://iseas-kyoto.org/wp-content/uploads/2019/04/2019.6.4.A4.pdf>

・ Bertelli Giulio Antonio, *L'alba delle relazioni diplomatico-commerciali fra Italia e Giappone (1860-1880)*, Sissco - Cantieri di storia X - Università di Modena, 18-20 settembre 2019, 2019年9月

<http://www.sissco.it/articoli/cantieri-di-storia-x/cantieri-di-storia-x-programma-definitivo/>

- ・ Bertelli Giulio Antonio, *Le 'Peregrinazioni nell'Estremo Oriente' di Ugo Pisa - Testimonianza inedita di un giovane diplomatico italiano in Cina e Giappone (1870-1872)*, XLIII Convegno AISTUGIA — Università "L'Orientale" di Napoli (第43回伊日本研究会大会) (於：ナポリ大学), 2019年9月
〈調査活動〉2019年9月11日～9月30日、イタリア、ローマなどにて史料調査・研究発表
[その他の活動]
〈管理運営〉人権委員会委員、イタリア語部会主任
〈学会活動〉
 - ・ イタリア学会 (評議員)
 - ・ 第67回イタリア学会大会にて、研究発表司会。発表者、発表名：POZZI, Carlo Edoardo (同志社大学) 「駐イタリア日本特命全権公使浅野長勲の外交活動についての政治的考察 — 1880年代前半における日伊外交関係を軸に一」、於：鹿児島大学 (郡元キャンパス)、2019年10月26日
〈社会貢献活動〉
 - ・ Bertelli Giulio Antonio, *Giacomo Farfara in Giappone nel 1868*, SETA — Il filo d'oro che unì il Piemonte al Giappone (講演会)、於：ローマ、UNAR (Unione delle Associazioni Regionali) 2019年9月
 - ・ 広島平和記念資料館の館内パネル・音声ガイドスクリプトのイタリア語訳監修

霜田 洋祐 (SHIMODA Yosuke) 助教

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習 (イタリア語)

〈学部教育担当科目〉イタリア語3、イタリア語11、イタリア言語文化概説I、イタリア語学講義、イタリア文化演習、イタリア語学文学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉イタリア近代文学

〈所属学会〉イタリア学会、関西イタリア学研究会、リアリズム文学研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 霜田洋祐「フランドルの画家マンゾーニ：『婚約者』と17世紀絵画のリアリズム」、『イタリア学会誌』第69号、pp.23-48、2019年10月
- ・ 霜田洋祐「マンゾーニの頌歌《五月五日 Il cinque maggio》の人気／民衆性 (ポピュラリティ) について」、言語社会共同研究プロジェクト2019『ヨーロッパ超越研究1』、pp.57-68、2020年3月
〈書評・論評・紹介〉
- ・ 霜田洋祐「書評『見る民、読む民、裁く民 — ロマン主義時代におけるもうひとつのフォルク』(須藤秀平著、松籟社)：文学研究者が「概念史」にかかわる意義」、『綴葉』(京大生協綴葉編集委員会)第380号、p.3、2019年8-9月
〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・霜田洋祐「地方の現実を「標準語」で自然に語る —ジョヴァンニ・ヴェルガ『マラヴォリア家の人々』の表現技法—」、日本独文学会春季研究発表会シンポジウム「国民国家と「村物語」—19世紀後半のドイツ語圏文学およびイタリア文学をめぐる地理的想像力」、於) 学習院大学目白キャンパス、2019年6月9日
- ・霜田洋祐「フランドルの画家マンゾーニ：『婚約者』と17世紀絵画のリアリズム」、リアリズム文学研究会2019年度第1回研究会、於) 大阪大学豊中キャンパス、2019年6月30日
- ・霜田洋祐「アレッシンドロ・マンゾーニ『婚約者』における歴史とフィクションの接続について」、世界文学会連続研究会「歴史と世界文学」第4回、於) 中央大学駿河台記念、2019年7月20日
- ・マルコ・リモンジェッリ、國司航佑、霜田洋祐「イテル・ヤボニクム——日本の図書館等所蔵の手稿と古い印刷本のカatalog作成に向けて——」、イタリア学会第67回大会、於) 鹿児島大学郡元キャンパス、2019年10月26日

〈研究助成〉

- ・科研費補助金 研究活動スタート支援「現実の記録と告発のためのリアリズム：マンゾーニ『婚約者』決定版のレトリック」

〈調査活動〉

- ・イタリア語で1600年以前に書かれた古刊本の国内所蔵カatalog作成のための調査(大阪大学、京都大学、京都産業大学、近畿大学、大阪府立図書館)

[その他の活動]

〈学会活動〉 イタリア学会監査、リアリズム文学研究会運営委員

〈社会貢献活動〉

- ・セミナー「イタリアで愛され嫌われ続ける小説—マンゾーニ『婚約者』の魅力」、(公財)日本イタリア会館、2019年5月25日
- ・『実用イタリア語検定20193・4・5級 問題・解説』(イタリア語検定協会編、丸善出版)において4・5級の解説を担当

〔スペイン語〕

大内 一 (OOUCHI Hajime) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論VA、ヨーロッパ言語社会動態論VB、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究A、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究B

〈共通教育担当科目〉知性への誘い

〈外国語学部担当科目〉スペイン語14(通年)、スペイン歴史・文化概論a、スペイン歴史・文化講義b、スペイン歴史・文化演習Ia、スペイン歴史・文化演習Ib、スペイン歴史・文化特別演習a(A)、スペイン歴史・文化特別演習b(A)、

[研究活動]

〈研究テーマ〉中世カスティーリャ王権論、カスティーリャ中世都市研究、アルフォンソ10世研究、イサベル1世研究

〈所属学会〉日本西洋史学会、西洋中世学会、スペイン史学会、日本イスパニヤ学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

「レコンキスタの起源について」論文紹介：A.ベスガ・マロキン著、「8世紀のアストゥリアス王国」, *Estudios Hispánicos*, 44, ps. 69-87.

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部長、大阪大学教育研究評議員、キャンパスライフ健康支援センター運営委員、大阪大学創立90周年・大阪外国語大学100周年記念事業記念募金実行委員、全学教育推進機構運営協議会委員、国際医療センター運営委員、全学施設マネジメント委員

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会理事・編集委員、Intus-Legere Historia (Universidad Adolfo Ibañez) 海外編集委員

〈社会貢献活動〉大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会 咲耶会名誉会長、生産技術振興協会『生産と技術』編集委員

長谷川 信弥 (HASEGAWA Shinya) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究A、広域言語文化論VB、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉スペイン語1、教科教育法(スペイン語) a,b、スペイン語学概論 a、カタロニア語 a,b、スペイン語学講義 a,b、スペイン語特別演習 a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉カタロニア語学、スペイン語学、ロマンス語学

〈所属学会〉日本イスパニヤ学会、日本ロマンス語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「(研究ノート)カタロニア語における日本語からの借用語の発音に関する予備調査」、*Estudios Hispánicos*、第44号、pp.1-10、2020年03月

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部人権問題委員会委員

〈学会活動〉日本イスパニヤ学会監査、日本ロマンス語学会理事

〈社会貢献活動〉公益財団法人日本イタリア会館顧問

岡本 淳子 (OKAMOTO Junko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉スペイン語中級

〈学部教育担当科目〉スペイン語3、スペイン語13、スペイン文学講義、スペイン文学演習、スペイン文学特別

演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 スペイン演劇

〈所属学会〉 大阪大学言語社会学会、日本イスパニヤ学会、日本演劇学会、日本アメリカ演劇学会、International Federation for Theatre Research

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』（月曜社、2019年9月）担当箇所：「ロペ・デ・ベガ」 pp.50-55、「フェデリコ・ガルシア・ロルカ」 pp.399-401.

〈論文〉

- ・「戯曲『奥さん、邪魔をしないで、黙ってお支払いください!』におけるリディア・ファルコンの女性への呼びかけ」 *Estudios Hispánicos* 44号（大阪大学外国語学部スペイン語部会、2020年3月） pp.41-57.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ブランカ・ドメネク『さすらう人々』、田尻陽一編『21世紀のスペイン演劇1』（水声社、2019年10月） pp.39-106.
- ・リディア・ファルコン『奥さん、邪魔をしないで、黙ってお支払いください!』 *Estudios Hispánicos* 44号（大阪大学外国語学部スペイン語部会、2020年3月） pp.29-40.

〈書評・論評・紹介〉

- ・「聖俗織りなす豊かな劇世界—スペイン・バロック演劇の第一人者カルデロン」『週刊読書人』（2019年4月12日発行）
- ・「騎士道物語の不朽の名作—『アマディス・デ・ガウラ』が描く愛と苦悩、許しと和解」『週刊読書人』（2020年3月13日発行）

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・The Diversity of Theatre in Madrid, Spain: La Pensión de las Pulgas (The Boarding House of Fleas) – Urban Time and Space Travel in *Came Viva (Raw Flesh)*, 2019年7月9日、International Federation for Theatre Research（於 上海芸術学院、中国）

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会副委員長、人権問題相談員

〈学会活動〉 日本イスパニヤ学会理事

〈社会貢献活動〉

- ・大阪大学外国語学部授業開放ウィーク、スペイン文学講義に高校生1名受け入れ（2019年10月16日）

松本 健二 (MATSUMOTO Kenji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アメリカ言語文化表象論、他

〈共通教育担当科目〉 スペイン語初級、他

〈学部教育担当科目〉 スペイン語13、他

[研究活動]

〈研究テーマ〉 現代スペイン語文学、チリ・ポスト軍政期文学

〈所属学会〉 日本イスパニヤ学会、日本ラテンアメリカ学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ “Algunos rasgos característicos de la versión japonesa de *Los heraldos negros*.” (Archivo Vallejo/2019年/Vo.4, Num.4 /pp.389-397)
- ・ 「チリのポスト軍政期文学における社会的包摂—エルティッツとスリータの研究に関するメモ書き—」 (『Estudios Hispánicos』 /2020年/44号/pp.59-68)

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ バレリア・ルイセリ『俺の歯の話』 (白水社/2019年/pp.1-214)

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 「スペイン語圏文学」 (2018年の年間動向回顧: 『文藝年鑑2019』 /2019年6月30日/新潮社/pp.91-93)
- ・ 「バルガス＝リョサの旺盛な創作活動〜ロードノベル/歴史から、記憶探求もの、マフィアの抗争を描いた小説まで」 (2019年のラテンアメリカ文学年間動向回顧: 『図書新聞』 /2019年12月/第3428号)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ “Algunos rasgos característicos de la versión japonesa de *Los heraldos negros*.” (国際シンポジウム *Los heraldos negros* 100 años después) での口頭発表/2019年7月18日ペルー国立サンマルコス大学)
- ・ 「戦いの場としての公共空間—ディアメラ・エルティッツの概念小説『ルンペリカ』について」 (口頭発表/東京スペイン語文学研究会/2020年1月25日慶応大学日吉キャンパス)

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費/基盤C/17K02618/チリのポスト軍政期文学の挑戦: スリータとエルティッツの文学に関する総合的研究 (2017~2019年度)

〈調査活動〉

- ・ 上記科研の資料調査 (サンティアゴ: 2019年9月6~16日)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガルセンター副センター長

中本 香 (NAKAMOTO Kaori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会構造論IV、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説 (リレー講義の1回分を担当)

〈学部教育担当科目〉 スペイン歴史文化概論、スペイン語3、スペイン語4、スペイン語13、スペイン歴史文化演習、スペイン歴史文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉

- ・近世スペイン王政と政治共同体に関する研究

〈所属学会〉日本イスパニヤ学会、日本西洋史学界、スペイン史学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「スペイン王位継承戦争と宰相ポルトカレロの国家理性」、*Estudios Hispánicos* 44、89-121 頁、大阪大学外国語学部スペイン語部会、2020.

〈研究助成〉

- ・基盤研究 A 「歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築」、平成 29～32 年度科学研究費助成金（研究代表者：古谷大輔）、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉なんでも相談室副室長、入試委員会委員（大学院）、施設マネジメント委員会委員、協定校コンタクトパーソン（バリアドリード大学、マドリード自治大学）

GARCIA NARANJO, Josefa, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Master Classes Special Seminary in Spanish, Language Didactics and Methodology, Osaka University, 2019-2020

<Foreign language classes> Speaking and Listening Classes in First and Second Year, Osaka University, 2019-2020

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Didactics of Spanish; Applied Linguistics and Literature; Literature applied to the Spanish Class; Lexicography

<Academic society memberships> Spanish Society for Applied Linguistics(AESLA); Confederación Académica Nipona, Española y Latinoamericana (CANELA); Spanish Linguistics of Kansai Circle(CLHK); TADESKA Association

[Research achievements]

<Papers>

- ・“Uso de las redes sociales como dinamizadoras de las destrezas orales y escritas en Español como Lengua Extranjera” *Frontier*, 2020. “Antonio Machado y la educación” *Estudios Hispánicos*, Osaka, 44, 2020.

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- ・ Reading of presentation of Doctoral Thesis (Ph.D.) at Humanities Faculty of UNED EIDUNED(International Doctoral School)(Spain) *Estudio de disponibilidad léxica en España y Japón mediante encuestas online*, Doctoral program of Philology: Linguistics and Literary Studies, Theory and Application, Madrid, 11-3-2020.

<Fieldworks> Applied Linguistics, Lexicography, Didactics

[Other activities]

<Academic society activities> Member of the DELE Qualifying Court, Cervantes Institute of Tokyo and Spain, Hirakata, May and November-2019.

〔ポルトガル語〕

平田 恵津子 (HIRATA Etsuko) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アメリカ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (ポルトガル語) II

〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 3(A)・(B)、ポルトガル語圏文学概論、ポルトガル語圏文学演習 I、ポルトガル語圏文学演習 III、ポルトガル語圏文学演習 IV

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 ブラジルモデルニズモ文学、日系ブラジル文学

〈所属学会〉 日本ポルトガル・ブラジル学会理事

〔研究業績〕

〈翻訳〉

・「ムリロ・ルビアン〈ドラゴン〉」、『ブラジル研究』第16号、pp.31-36、2020年3月31日

〔その他の活動〕

〈管理運営〉 国際交流委員会委員、安全衛生委員、海外交流協定校コンタクトパーソン (サンパウロ大学)

〈学会活動〉 日本ポルトガル・ブラジル学会理事

坂東 照啓 (BANDO Teruhiro) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語構造論 IX A・B

〈共通教育担当科目〉 欧米言語文化研究入門 A

〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 1、ポルトガル語 11(A)・(B)、ポルトガル語圏語学概論 a・b、ポルトガル語圏言語演習 Ia・b

鳥居 玲奈 (TORII Rena) 准教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アメリカ言語構造論 IAB、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (ポルトガル語) I

〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 2、ポルトガル語 12(A)(B)、ポルトガル語圏語学講義 ab、ポルトガル語圏言語演習 IIIab

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 言語学、ポルトガル語学

〈所属学会〉 日本ポルトガル・ブラジル学会、大阪大学言語社会学会

〔研究業績〕

〈書評・論評・紹介〉

- ・鳥居玲奈（2020）「書評 *Gramática inteligente do português do Brasil*, Contexto, 2017」、『ブラジル研究』16、大阪大学外国語学部ブラジル研究会.

[その他の活動]

〈管理運営〉

「なんでも相談室」室員、外国学図書館運営委員会委員、協定校コンタクト・パーソン（カンピーナス大学）

DEZEM Rogerio Akiti, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Foreign language classes> Portuguese Language and Brazilian History and Culture

[Academic activities]

<Research Fields and interests> History, Immigration, Sociology, Photography

<Academic society memberships> AJELB (Japanese Association of Luso-Brazilian Studies), LEER/USP (Sao Paulo, Brazil)

[Research achievements]

<Book reviews> Reviewer for Faces da Historia magazine/UNESP (Assis, Brazil)

<Papers>

- ・ Article “Tempos Sombrios para os imigrantes japoneses no Brasil (1941-1948)” in Revista de Estudos Brasileiros vol. 16 Graduate School of Language and Culture Osaka University (March 2020)

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

- ・ Interview for Folha de Sao Paulo newspaper “Ofensa a japoneses amplia rol de declaracoes preconceituosas de Bolsonaro”(2020 January 26th)
- ・ Interview for Arquivo S site from the Brazilian Federal Senate “No fim do Imperio, Brasil tentou substituir escravo negro por ‘semiescravo’chines”(2019 September 2nd)